

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ミヤギキョウイクダイガク 国立大学法人 宮城教育大学								
フリガナ大学の名称	ミヤギキョウイクダイガクダイガクイン 宮城教育大学大学院								
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区字青葉149番地								
大学の目的	国立大学法人宮城教育大学は、宮城教育大学を設置し、大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。								
新設学部等の目的	宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、学部段階や学校教育現場において培われた教員としての知識・技能と実践力を基盤に、さらに教職としての高度な専門性を身につけ、教育現場における今日的課題の解決に向けた、状況分析能力、分析結果を実践につなげる実行力を備えた教員、ひいては、学校や地域で中核的・指導的な役割を果たすスクールリーダーまたはその候補になり得る人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】教育学部 14条特例の実施教職大学院
	教育学研究科 [Graduate School of Education]	年	人	年次人	人	教職修士 (専門職) (Master of Education (Professional))	年月 第 年次	宮城県仙台市青葉区 荒巻字青葉149番地	
	高度教職実践専攻 [Advanced Program for Professional Teacher Education]	2	52	—	104	令和3年4月 第1年次			
	計	2	52	—	104				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	・大学院教育学研究科修士課程（廃止） 特別支援教育専攻（△3） 教科教育専攻（△22） ・令和3年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科 高度教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計	46単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	教育学研究科 高度教職実践専攻（専門職学位課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			17人 (17)	14人 (14)	0 (0)	0 (0)	31人 (31)	0 (0)	57人 (57)
		計	17 (17)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	- (-)
	既設	教育学研究科 特別支援教育専攻（修士課程）	3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		教育学研究科 教科教育専攻（修士課程）	40 (40)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	57 (57)	0 (0)	- (-)
		教育学研究科 高度教職実践専攻（専門職学位課程）	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
		計	53 (53)	28 (28)	0 (0)	0 (0)	81 (81)	0 (0)	- (-)
	合計		70 (70)	42 (42)	0 (0)	0 (0)	112 (112)	0 (0)	- (-)
	教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計	
事務職員		70人 (70)		29人 (29)		99人 (99)		大学全体	
技術職員		5 (5)		0 (0)		5 (5)			
図書館専門職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)			
その他の職員		1 (1)		28 (28)		29 (29)			
計		79 (79)		57 (57)		136 (136)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	84,805㎡	0 ㎡	0 ㎡	84,805㎡					
	運 動 場 用 地	45,126㎡	0 ㎡	0 ㎡	45,126㎡					
	小 計	129,931㎡	0 ㎡	0 ㎡	129,931㎡					
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡					
	合 計	129,931㎡	0 ㎡	0 ㎡	129,931㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		33,551㎡ (33,551㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	33,551㎡ (33,551㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	26室	47室	119室	4室 (補助職員1人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	教育学研究科 高度教職実践専攻	9,271 [51,144] ([])	338 [31] ([])	3,898 [3,898] ([])	2620 ()	28 ()	0 ()			
	計	9,271 [51,144] ([])	338 [31] ([])	3,898 [3,898] ([])	2620 ()	28 ()	0 ()			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		2,857㎡		361	268,278					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,496㎡		武 道 場 表 現 実 習 棟						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
	図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	宮城教育大学								【基礎となる学部】教育学部 14条特例の実施 教職大学院
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	教育学部 初等教育教員養成課 程	4	188	年次 人	752	学士(学校教育 学) 学士(学校教育 学)	1.03	平成19年度 平成19年度 平成19年度	宮城県仙台市青葉区 荒巻字青葉149番地	
	中等教育教員養成課 程	4	107		428		1.03			
		4	50		200		1.08			
	教育学研究科 特別支援教育専攻 教科教育専攻 高度教職実践専攻	2 2 2	3 22 32		6 44 64	修士(教育学) 修士(教育学) 教職修士(専 門職)	0.83 1.00 0.98	昭和63年度 昭和63年度 平成20年度		

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：附属図書館 目的：図書館及びその他の資料を収集し、管理し、本学の教員、学生の利用に供する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：昭和40年4月 規模等：建物 2,857㎡ 2,934㎡</p> <p>名称：保健管理センター 目的：本額の学生及び居職員の保健管理と健康教育に関する専門的業務を行い、心身の健康の保持増進を図る 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：昭和47年5月 規模等：建物 300㎡</p> <p>名称：情報活用能力育成機構 目的：学校における子供の情報活用能力の育成に係る教育並びに情報通信技術その他の先端技術及び教育ビッグデータを活用した教育及び学校運営（以下「情報教育」という。）の教育研究及び本学の情報化に係る取組を全学的な教職員の連携を図りつつ総合的に推進することにより、もって本学の学生の情報活用能力の向上及び教員として情報教育に取り組む力の育成並びに地域の学校の情報教育の推進等に寄与する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：令和2年4月 規模等：建物 479㎡（情報処理センター時）</p> <p>名称：キャリアサポートセンター 目的：本学の学生等の就職等の支援及びボランティア等の推進に寄与する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：平成23年4月 規模等：建物（該当床面積） 249.59㎡</p> <p>名称：防災教育研修機構 目的：東日本大震災から得られた学校等における防災教育及び幼児児童生徒の安全確保に関する教訓等を収集し、分析し、及びそれらを活用した教育研究、研修、情報提供等を推進することにより、もって本学の学生の学校等における防災及び減災に関する知識及び技術の修得及び向上、全国の学校等における防災教育及び幼児児童生徒の安全確保のための取組の充実並びに教訓等の伝承に寄与する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：平成31年4月 規模等：建物 285㎡</p> <p>名称：教員キャリア研究機構 目的：学校における現代的な教育課題に対応する先進的な取組により、教育現場の諸課題の解決を図り、教員資質の高度化に寄与し、広域拠点型大学として研究成果の普及・発展に貢献する 所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 設置年月：平成29年3月 規模等：建物 1,705㎡</p> <p>名称：附属学校 目的：教育基本法及び学校教育法に基づいて保育又は教育を行うとともに、本学における幼児、児童又は生徒の保育又は教育に関する研究に協力し、あわせて本学の計画に従い学生の教育実習の実施に当たる 所在地：宮城県仙台市青葉区上杉6丁目4番1号（小学校、中学校、幼稚園） 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉395の2（特別支援学校） 設置年月：昭和42年4月 規模等：土地 57,659㎡ 建物 15,691㎡</p>	
----------------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(大学院教育学研究科高度教職実践専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育課程に関する編成領域・実施	学びの地図と資質・能力	1		2				○		1	2				オムニバス方式・共同(一部)
	カリキュラムマネジメントと教師の役割	1		2				○		2	1				オムニバス方式・共同(一部)
	社会に開かれた教育課程と授業開発	1		2				○		1	2				オムニバス方式・共同(一部)
	小計(3科目)	—		6				—		3	3				
教科に関する実践的領域指導に	授業設計・教科内容構成論(基礎)	1		2				○		1	4				オムニバス方式・共同(一部)
	授業設計・教科内容構成論(応用)	1		2				○		1	4				オムニバス方式・共同(一部)
	教育における臨床の学の創造	1		2				○		1	2				オムニバス方式・共同(一部)
	小計(3科目)	—		6				—		2	7				兼1
専門高度化基盤科目	生徒指導・教育相談に関する領域	1		2				○		2	1				オムニバス方式・共同(一部)
	子どもの生活と行動・実態把握論(特別支援)	1		2				○		2	1				オムニバス方式・共同(一部)
	子どもの生活と行動・実態分析論	1		2				○		2	1				オムニバス方式・共同(一部)
	子どもの生活と行動・実態分析論(特別支援)	1		2				○		2	1				オムニバス方式・共同(一部)
	特別支援教育と学校・学級経営	1		2				○		1					兼3 オムニバス方式
	特別支援教育と学校・学級経営(特別支援)	1		2				○		1					兼3 オムニバス方式
	小計(6科目)	—		12				—		3	1				兼3
校級経営に関する領域・学校経営	安心・安全な学級・学級づくり(基礎)	1		2				○		2	3				兼2 オムニバス方式・共同(一部)
	安心・安全な学級・学校づくり(応用)	1		2				○		2	1				兼2 オムニバス方式・共同(一部)
	小計(2科目)	—		4				—		2	3				兼2
員のある教育と教師に関する領域	地域協働と学校づくり	1		2				○		2	2				兼1 オムニバス方式・共同(一部)
	教師の成長と子どもの発達	1		2				○		1	2				兼2 オムニバス方式・共同(一部)
	小計(2科目)	—		4				—		3	3				兼3
(基礎実習①) 学校における	学校課題探究実習 I	1	2					○		3	3				集中
	学校課題探究実習 II	1	2					○		3	3				集中
	小計(2科目)	—	4					—		3	3				

専門 高度化 探究科目	教科 探究科目 共通科目	教育における臨床の知	1・2	2	○	1	3				オムニバス方式・共同（一部）
		教育実践記録と授業分析論	1・2	2	○	1	2				オムニバス方式・共同（一部）
		社会変動と学力論	1・2	2	○	2					オムニバス方式・共同（一部）
		クロスカリキュラムの学習と評価	1・2	2	○	2					兼1 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・国語科）	1・2	2	○						兼3 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・国語科）	1・2	2	○						兼3 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・社会科）	1・2	2	○	2					兼7 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・社会科）	1・2	2	○	2					兼7 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・算数）A	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・算数）A	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・数学科）B	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・数学科）B	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・理科）A	1・2	2	○	1	1				兼5 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・理科）B	1・2	2	○	1	1				兼6 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・理科）A	1・2	2	○	1	1				兼5 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・理科）B	1・2	2	○	1	1				兼6 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・英語科）	1・2	2	○		1				兼3 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・英語科）	1・2	2	○		1				兼3 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・技術科）	1・2	2	○	1					兼2 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・技術科）	1・2	2	○	1					兼2 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・家庭科）	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・家庭科）	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・音楽科）	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・音楽科）	1・2	2	○		1				兼4 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・美術科）	1・2	2	○						兼2 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（応用・美術科）	1・2	2	○						兼3 オムニバス方式・共同（一部）
		授業検証と教科内容開発（基礎・保健体育科）	1・2	2	○		1				兼5 オムニバス方式・共同（一部）
授業検証と教科内容開発（応用・保健体育科）	1・2	2	○		1				兼5 オムニバス方式・共同（一部）		
小計（28科目）	—	56	—	8	9				兼46		

特別支援・子ども支援科目	インクルーシブ教育総論	1・2		2			○		1	1				兼2	オムニバス方式・共同（一部）	
	特別支援教育コーディネーター概論	1・2		2			○		2					兼2	オムニバス方式・共同（一部）	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ（知的障害・自閉症スペクトラム障害等）	1・2		2			○		2					兼1	オムニバス方式・共同（一部）	
	支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ（感覚障害・運動障害・身体疾患系）	1・2		2			○			1				兼2	オムニバス方式・共同（一部）	
	不登校・学校不応状況と学校教育	1・2		2			○		2	1					オムニバス方式・共同（一部）	
	子どもをめぐる社会的諸問題と福祉	1・2		2			○			1				兼3	オムニバス方式・共同（一部）	
	特別支援教育とICT	1・2		2			○		1	1				兼2	オムニバス方式・共同（一部）	
	小計（7科目）	—		14			—		4	2				兼5		
学校課題解決マネジメント科目	地域協働フィールドワーク論	1・2		2			○		2					兼1	オムニバス方式・共同（一部）	
	リーガルマインドによる学校づくり	1・2		2			○		2	1				兼1	オムニバス方式・共同（一部）	
	学校安全と防災教育	1・2		2			○		3	2					オムニバス方式・共同（一部）	
	情報リテラシーとICT	1・2		2			○		1	1				兼1	オムニバス	
	グローバル教育課題の探究	1・2		2			○		2					兼3	オムニバス方式・共同（一部）	
	幼年期の教育と幼保小連携・接続	1・2		2			○			2				兼2	オムニバス方式・共同（一部）	
	小計（6科目）	—		12			—		6	5				兼7		
専門高度化深化科目 (臨床実践) 学校における実習②	学校課題解決実習	2	2				○		5	4					集中	
	臨床教育開発実習	2	4				○		5	4					集中	
	小計（2科目）	—	6				—		5	4						
	実践的指導力融合科目	実態把握と実践適応論	1	2				○		14	14					共同
		実践適応と評価・分析論	1	2				○		14	14					共同
		臨床教育総合演習A	2	2				○		12	13					共同
		臨床教育総合演習A（特別支援）	2	2				○		2	1					共同
		臨床教育総合演習B	2	2				○		12	13					共同
		臨床教育総合演習B（特別支援）	2	2				○		2	1					共同
	小計（6科目）	—	12				—		14	14						
合計（67科目）		—	20	114			—		16	14				兼57		
学位又は称号	教職修士（専門職）			学位又は学科の分野				教員養成関係								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修業年限	2年	1学年の学期区分	2期
修了所要単位数	46単位	1学期の授業期間	15週
専門高度化基盤科目		1時限の授業時間	90分
共通5領域	各領域2単位以上 合計20単位		
学校における実習①（基礎実践）	4単位		
専門高度化探究科目			
教科探究科目	} 8単位		
特別支援・子ども支援科目			
学校課題解決マネジメント科目			
専門高度化深化科目			
学校における実習②（臨床実践）	6単位		
実践的指導力融合科目	8単位		

(履修科目の登録の上限：36単位(年間))

○専門高度化基盤科目共通5領域の履修について
3つの履修プログラムで共通に履修する必修科目であり、各領域2単位以上、合計20単位を修得する。各学生の必要に応じて各領域の科目を修得することができる。

○専門高度化探究科目の履修について
3つの履修プログラムに対応したそれぞれの授業科目において8単位以上履修すること。

○学校における実習の履修について
「専門高度化基盤科目」の中の「学校における実習①（基礎実践）」4単位（「学校課題探究実習Ⅰ」「学校課題探究実習Ⅱ」）および「専門高度化深化科目」の中の「学校における実習②（臨床実践）」6単位（「学校課題解決実習」「臨床教育開発実習」）の合計10単位を修得する。「専門高度化基盤科目」での実習を踏まえ、「専門高度化深化科目」で発展的な実習を行う。

○専門高度化基盤科目における共通5領域の生徒指導・教育相談に関する領域、および専門高度化深化科目における実践的指導力融合科目の履修について
特別支援教育の専修免許状の取得を希望する場合は、「〇〇〇〇（特別支援）」の科目を履修すること。

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(大学院教育学研究科高度教職実践専攻【既設】)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教育課程	「子どもの学習指導」教育課程・指導支援法開発論	1		2			○		1	2				オムニバス方式
	「子どもの生活と行動」教育課程・指導支援法開発論	1		2			○		2	1				オムニバス方式
	教育課程・指導支援法開発論 a	1		2			○		2	2				オムニバス方式・共同（一部）
	教育課程・指導支援法開発論 b	1		2			○		1	2				オムニバス方式
	小計（4科目）	—		8			—		4	3				
教科指導	「子どもの学習指導」実態把握論A	1		2			○		1					共同 オムニバス方式・共同（一部）
	「子どもの学習指導」実態把握論B	1		2			○		1	1				
	「子どもの学習指導」実態分析論A	1		2			○		今年度は開講しない					
	「子どもの学習指導」実態分析論B	1		2			○		4					
	小計（4科目）	—		8			—		6	1				
教育相談	「子どもの生活と行動」実態把握論	1		2			○		2	1				オムニバス方式
	「子どもの生活と行動」実態分析論	1		2			○		2	1				オムニバス方式
	小計（2科目）	—		4			—		2	1				
学級・学校経営	学級・学校経営研究A（学校マネジメント基礎）	1		2			○		2	2				オムニバス方式・共同（一部）
	学級・学校経営研究B（学校マネジメント習熟）	1		2			○		3	3				オムニバス方式・共同（一部）
	学級・学校経営研究C（学校マネジメント発展）	1		2			○		4	2				オムニバス方式・共同（一部）
	学級・学校経営研究D（初歩）	1		2			○		1	2				オムニバス方式・共同（一部）
	小計（4科目）	—		8			—		4	3				
学校教育・教職研究	学校教育・教職研究A（防災教育）	1		2			○		2	3				共同
	学校教育・教職研究B（地域協働）	1		2			○		2	3				オムニバス方式
	学校教育・教職研究C（リーガルマインド）	1		2			○		2	2				オムニバス方式・共同（一部）
	学校教育・教職研究D（初歩）	1		2			○		1	3				オムニバス方式
	学校教育・教職研究E（初歩）	1		2			○		1	3				オムニバス方式
	学校教育・教職研究F（組織と問題解決）	1		2			○		3	4				オムニバス方式・共同（一部）
	小計（6科目）	—		12			—		3	4				兼2

教科・領域専門バックグラウンド科目群	幼児教育特論・特演A	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	幼児教育特論・特演B	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	環境教育情報特論・特演A	1・2	2	○									兼1	
	環境教育情報特論・特演B	1・2	2	○									兼1	
	自然環境教育特論・特演	1・2	2	○									兼1	
	視覚障害教育特演	1・2	2	○									兼3	オムニバス方式
	発達障害教育特演	1・2	2	○									兼1	
	聴覚・言語障害特演	1・2	2	○									兼3	オムニバス方式
	国語学特講	1・2	2	○									兼1	
	国語科教育特講	1・2	2	○									兼1	
	歴史学特講	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	地理学特講	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	経済学・社会学特講	1・2	2	○									兼1	
	哲学・倫理学特講	1・2	2	○									兼1	
	社会科教育特講	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	解析学特講	1・2	2	○									兼1	
	代数学特講	1・2	2	○									兼1	
	幾何学特講	1・2	2	○									兼1	
	数学科教育特講	1・2	2	○									兼1	
	物理学特講	1・2	2	○									兼3	オムニバス方式
	化学特講	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	生物学特講	1・2	2	○									兼3	オムニバス方式
	地学特講	1・2	2	○									兼3	オムニバス方式
	理科教育特講	1・2	2	○									兼2	オムニバス方式
	声楽特講	1・2	2	○									兼1	
	器楽特講	1・2	2	○									兼1	
	指揮特講	1・2	2	○									兼1	
	音楽学特講	1・2	2	○									兼1	
	音楽科教育特講	1・2	2	○									兼1	
	絵画特講	1・2	2	○									兼1	
彫刻特講	1・2	2	○									兼1		
美術科教育特講	1・2	2	○									兼1		

	教育保健学特講	1・2		2		○										兼1	
	運動学特講	1・2		2		○										兼2	オムニバス方式
	体育学特講	1・2		2		○										兼1	
	電気特講	1・2		2		○										兼1	
	機械特講	1・2		2		○										兼1	
	被服学特講	1・2		2		○										兼1	
	住居学特講	1・2		2		○										兼1	
	保育学特講	1・2		2		○										兼1	
	情報特講	1・2		2		○										兼1	
	生活系教育特講a	1・2		2		○										兼1	
	生活系教育特講b	1・2		2		○										兼1	
	英語学特講	1・2		2		○										兼1	
	英米文学特講	1・2		2		○										兼1	
	英語科教育特講	1・2		2		○										兼1	
	小学校英語活動特講	1・2		2		○										兼1	
	小計（47科目）	—		94		—										兼61	
実践的指導	実践適応と評価・分析論A	1	2			○		10	7								共同 共同 集中・共同 集中・共同
	実践適応と評価・分析論B	2	2			○		10	7								
	臨床教育総合研究A	2	2			○		10	7								
	臨床教育総合研究B	2	2			○		10	7								
	小計（4科目）	—	8			—		10	7								
学校等における実践研究	基礎実践研究Ⅰ	1	2			○		10	7								集中・共同 集中・共同 集中・共同 集中・共同 集中・共同 集中・共同 集中・共同
	基礎実践研究Ⅱ	1	2			○		10	7								
	応用実践研究Ⅰ	1	2			○		10	7								
	応用実践研究Ⅱ	2	2			○		10	7								
	応用実践研究Ⅲ	2	2			○		10	7								
	教育経営実践研究A	2		8		○		4	3								
	教育経営実践研究B	2		2		○		4	3								
小計（7科目）	—	10	10		—		10	7									
合計（78科目）		—	18	144		—		10	7							兼63	

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係			
卒業要件及び履修方法			授業期間等			
修業年限	2年		1 学年の学期区分	2 期		
修了所要単位数	4 6 単位		1 学期の授業期間	1 5 週		
教育課程	a. 2 単位以上 b. 4 単位以上		1 時限の授業時間	9 0 分		
教科指導	a. 2 単位以上 b. 4 単位以上		<table border="1"> <tr> <td>a. 教育経営コース</td> </tr> <tr> <td>b. 授業力向上コース</td> </tr> </table>		a. 教育経営コース	b. 授業力向上コース
a. 教育経営コース						
b. 授業力向上コース						
教育相談	2 単位以上					
学級・学校経営	a. 2 単位以上 b. 4 単位以上					
学校教育・教職研究 （ストレートマスター学生は、必修を含み 4 単位以上）	a. 2 単位以上 b. 4 単位以上					
教科・領域専門バックグラウンド科目群	8 単位以上					
実践的指導	8 単位					
学校等における実践研究 （基礎実践研究Ⅰ、Ⅱを免除された場合は、6 単位）	1 0 単位					
(履修科目の登録の上限：3 6 単位（年間）)						

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院教育学研究科高度教職実践専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育課程の編成・実施に関する領域	学びの地図と資質・能力	<p>授業のテーマ：教育課程における評価の健全なPDCAサイクルを確立させるためにどのような評価課題が必要で、どのように見取るのか、実際にパフォーマンス課題を作成し検証していく。そのために、あるべき知識構造とはどのようなものなのか、深い学びとはどのような状態なのかを考察したい。</p> <p>到達目標：各自の研究テーマに即したパフォーマンス課題とそのルーブリックを作成できること。</p> <p>授業の概要：まず始めに教育評価に関する理論的枠組みを習得し、その実践として各教科や研究テーマに分かれてパフォーマンス課題とそのルーブリックを作成する。パフォーマンス課題作成にあたっては当該単元の教材研究が必要とされる。第9回以降は各グループが作成するテスト(パフォーマンス課題)とそのルーブリックを発表し、その検討会を行う。パフォーマンス課題は総合的な学習や特別活動の課題なども含む。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (6 平真木夫・19 金田裕子・31 信太昭伸／8回) (共同) 「オリエンテーション(教科や研究テーマによるグループ分け)」、 「テスト実施とルーブリック発表：算数・数学、国語、総合的な学習の時間、外国語活動・英語、道徳、理科、社会科」 (6 平真木夫／6回) 「教育評価概論：教育評価の鳥瞰図、絶対評価と到達度評価、ルーブリック作成の実際、認知心理学からみた記憶理論」 (6 平真木夫・19 金田裕子・実務家／1回) (共同) 「テスト課題作成準備」</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	カリキュラムマネジメントと教師の役割	<p>授業のテーマ：カリキュラムマネジメントの理論と実際</p> <p>到達目標：カリキュラムマネジメントの理論的・実践的知見を、学校教育の課題と子どもの実態に即して理解できる。</p> <p>授業の概要：学習指導におけるPDCAサイクルについて理解し、地域と子どもの教育課題を把握・分析するとともに、その結果に基づいてカリキュラムと授業を計画・実施・検証・改善していくための基礎的な知見を身に付ける。</p> <p>(オムニバス／15回) (3 吉村敏之／5回) 「なぜカリキュラムマネジメントが求められるのか」 「学校におけるカリキュラムマネジメント：地域と子どもの実態把握、年間指導計画の検証、学年と教科を横断して、教職員・保護者・地域」 (13 本田伊克／5回) 「カリキュラム(教育課程)とは何か」、「教育課程の基準としての学習指導要領：その変遷、いかに運用するか、工学的アプローチ、羅生門的アプローチ」 (30 澤田茂実・3 吉村敏之・13 本田伊克／4回) (共同) 「どのように授業を計画するか：総合的な学習の時間を軸に、探究する力を各学校段階で」、「学校評価と連動した授業研究会づくり」、「子どもから始まるカリキュラムマネジメント」 (3 吉村敏之・13 本田伊克／1回) (共同) 教師に求められるカリキュラムマネジメントの力とは(まとめ)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

<p>社会に開かれた教育課程と授業開発</p>	<p>授業のテーマ：教育課程編成と授業開発を行うための基礎知識の獲得到達目標：現代日本における学校と社会との関係を教育課程の編成の観点から捉えることができる。社会的な要求と子どもの求めの実現を教育課程の編成に生かし、単元及び授業開発を行うことができる。</p> <p>授業の概要：学校と社会との関係がダイナミックに変化する現代日本の教育において、国民や地域社会の住民が求める要求に応答しながら、学校と社会が協同して教育を行っていくことを軸にした教育課程編成と授業開発を行うための知見を身に付ける。</p> <p>(オムニバス／15回) (13 本田伊克／4回) 「オリエンテーション：教育課程編成と社会の要求」、「現代社会における学校と社会の関係：世界編、日本編」、「地域社会の求めと教育課程」 (19 金田裕子／4回) 担当内容「地域と学校の協同のヴァリエーション」、「地域と学校の協同：地域素材、学習参加、表現と創造性」 (30 澤田茂実／4回) 「学校と社会の協同：実践事例に基づく討論、実践事例に基づく分析と考察」、「社会との協同を意図した単元づくり：題材の発見、授業計画づくり」 (全員／3回) (共同) 担当内容「社会との協同を意図した単元づくり：模擬授業の実践、模擬授業の振り返りと省察」、「社会との協同を意図した教育課程と授業をどうつくるか」</p>	<p>オムニバス形式・共同 (一部)</p>
<p>授業設計・教科内容構成論 (基礎)</p>	<p>授業のテーマ：教科の指導内容・方法と授業展開がこれまでどのようにつくられたか。新たな課題はどこにあるか。 到達目標：(1) 教科指導の原理と教科指導の歴史的歩みについて理解する。(2) いくつかの具体的な教科の事例に即して学習指導および評価の歴史的歩みと課題について理解する。(3) 教科指導の実践上の工夫と課題について学ぶ。</p> <p>授業の概要：教科の授業展開・指導方法に関する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識との関連性に基づきながら、授業を組織する原理と方法について理論的に考察する力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス／15回) (3 吉村敏之／4回) 「教科の原理と学習について学ぶ意義」、「教科学習の原理：教科の成り立ち、教科の展開」、「教科指導の歴史「わかる」ことと「できる」こと」 (25 越中康治／2回) 「教科学習の原理 教科と社会性の関連」、「教科指導の歴史 「陶冶」と「訓育」」 (16 市川啓／3回) 「教科各論Ⅰ—算数・数学の目標」、「教科各論Ⅰ—算数・数学の指導法」、「教科各論Ⅰ—算数・数学の評価法」 (17 小畑千尋／3回) 「教科各論Ⅱ—音楽科の目標」、「教科各論Ⅱ—音楽科の指導法」、「教科各論Ⅱ—音楽科の評価法」 (31 信太昭伸／2回) 「教科指導の授業実践上の課題」、「教科指導の授業実践上の工夫」 (3 吉村敏之・25 越中康治・31 信太昭伸／1回) (共同) 教科指導についていかなる見通しをもつべきか (まとめ)</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

教科の
実践的
指導に
関する
領域

授業設計・教科内容構成論 (応用)	<p>授業のテーマ：教科の指導内容・方法と授業展開がこれまでどのようにつくられたか。新たな課題はどこにあるか。</p> <p>到達目標：(1) 教科指導を通して獲得される学力・学習に関する調査結果を分析し、指導の改善に活用する方法を理解する。(2) 教科学習における子どものつまずきを実際の授業を分析してとらえ、つまずきに応じた学習指導の方法を生み出す原則を理解する。</p> <p>授業の概要：教科の授業展開・指導方法に関する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識との関連性について、具体的な授業実践を把握する活動を通して考察する。考察を通して、教材研究の進め方、授業展開、授業分析の方法等の教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(13 本田伊克／1回) 「教科で培われる学力と学習の様子をどう捉えるか」</p> <p>(25 越中康治／1回) 「教科学習における子どもの個人的・社会的認識の形成をデータで把握する」</p> <p>(44 児玉忠／1回) 「学力調査結果を分析する(1) 国語」</p> <p>(16 市川啓／1回) 「学力調査結果を分析する(2) 算数・数学」</p> <p>(23 鈴木渉／1回) 「学力調査結果を分析する(3) 英語」</p> <p>(44 児玉忠・31 信太昭伸／1回) (共同) 「教科の授業実践におけるつまずき(1) 国語」</p> <p>(16 市川啓・31 信太昭伸／1回) (共同) 「教科の授業実践におけるつまずき(2) 算数・数学」</p> <p>(23 鈴木渉・31 信太昭伸／1回) (共同) 「教科の授業実践におけるつまずき(3) 英語」</p> <p>(31 信太昭伸・44 児玉忠・16 市川啓・23 鈴木渉／2回) (共同) 「教科学習の実際(1) 見通しと振り返り」、「教科学習の実際(2) 指導としての評価」</p> <p>(13 本田伊克・25 越中康治／1回) (共同) 「これからの教科指導とは(まとめ)」</p> <p>(全員／4回) (共同)</p> <p>学力調査からつまずきを読み解く(事例検討)、(分析) 学力調査を読み解く(1) つまずきを把握する、(2) つまずきの構造・要因を捉える</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
----------------------	--	--------------------

<p>教育における臨床の学の創造</p>	<p>テーマ：宮城教育大学を軸にした「教育における臨床の学」の理論と実際 到達目標：眼前の子どもの抱える諸課題に対応できる力を培う。 子どもの課題をとらえる力 課題の改善にむけた対応の原理と手法を知る。</p> <p>授業の概要：子どもが学習の際に直面する課題に対し、教科専門、教科教育、教職専門のそれぞれの知見を総合し、課題の改善につながる方策を求める。本学で40年以上にわたって脈々と蓄積されてきた「教育における臨床の学」の財産をいかし、子どもの学習の道筋に即して学問・芸術の魅力を味わわせる教科指導のあり方をさぐる。</p> <p>(オムニバス／15回) (3 吉村敏之／4回) 「教育における臨床の学とは」、「教育研究・研修と教材研究：青森県三本木小学校、石川県片山津中学校、埼玉県山村女子高等学校」 (3 吉村敏之・19 金田裕子／4回) (共同) 「宮城教育大学における「臨床の学」：林竹二の思想、高橋金三郎の教授学、斎藤喜博の教授学」、「教科学習における子どもの学習の道筋(3) 育ちあう評価」 (30 澤田茂実・19 金田裕子／3回) (共同) 「「臨床の学」の実践事例に学ぶ：兵庫県立湊川高校、群馬県島小学校、山梨県巨摩中学校」 (19 金田裕子／1回) 「教育研究・研修と教材研究(4) 兵庫県豊岡小学校」 (3 吉村敏之・30 澤田茂実／2回) (共同) 「教科学習における子どもの学習の道筋：教材との出会い、学習集団を育てる」 (全員／1回) (共同) 授業を「生きる」こと</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>子どもの生活と行動・実態把握論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：教育相談(適応支援領域・特別支援教育領域)の観点から、学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握する。</p> <p>授業の概要：教育相談(適応支援領域・特別支援教育領域)の観点から、学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握するために、カウンセリングや発達、特別支援教育に関する諸理論に照らしつつ、その実態や意味について理解を深めるとともに、演習を通して教育相談活動の中での実際的な活用方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス／15回) (27 佐藤静／4回) 「教育相談と適応支援」、「教育相談や適応支援のためのカウンセリング：(理論)、(実践)」、「適応と不適応のあいだ」 (26 関口博久／3回) 「教育相談と特別支援教育」、「教育相談と特別支援教育の支援のあり方：(理論)、(実践)」 (22 久保順也／6回) 「スクールカウンセラーとの学内連携や学外連携」、「学校で活用する家族療法・短期療法：理論、技法」、「ロールプレイによる事例検討：リフレクションの有効活用、オルタナティブ・ストーリーの共同構築、ミドル・リーダーによる後進育成を企図して」 (全員／2回) (共同) オリエンテーション、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

<p>子どもの生活と行動・実態把握論（特別支援）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、特別支援学校を中心とした学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握する。</p> <p>授業の概要：教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、特別支援学校を中心とした学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握するために、カウンセリングや発達、特別支援教育に関する諸理論に照らしつつ、その実態や意味について理解を深めるとともに、演習を通して教育相談活動の中での実際的な活用方法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／15回） （全員／2回） 「オリエンテーション」、「まとめ」 （27 佐藤静／4回） 「特別支援学校における教育相談と適応支援」、「特別支援学校における教育相談や適応支援のためのカウンセリング」、「特別支援学校における教育相談や適応支援のためのカウンセリング（実践）」、「適応と不適応のあいだ」 （26 関口博久／3回） 「教育相談と特別支援教育」、「教育相談と特別支援教育の支援のあり方（理論）」、「教育相談と特別支援教育の支援のあり方（実践）」 （22 久保順也／6回） 「スクールカウンセラーとの学内連携や学外連携」、「学校で活用する家族療法・短期療法：理論」、「学校で活用する家族療法・短期療法：技法」、「ロールプレイによる事例検討①：リフレクションの有効活用」、「ロールプレイによる事例検討②：オルタナティブ・ストーリーの共同構築」、「ロールプレイによる事例検討③：ミドル・リーダーによる後進育成を企図して」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>子どもの生活と行動・実態分析論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について分析や評価、検討の方法論について理論的に学ぶとともに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・指導方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。</p> <p>授業の概要：「子どもの生活と行動・実態把握論」で学修した資料や知識等を土台としつつ、教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について分析や評価、検討の方法論について理論的に学ぶとともに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・指導方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。</p> <p>（オムニバス／15回） （27 佐藤静／4回） 「教育相談と適応支援の実態分析」、「教育相談や適応支援のためのカウンセリングの実態」、「教育相談や適応支援のためのカウンセリングの課題（実践）」、「適応支援についての演習」 （26 関口博久／4回） 「教育相談と特別支援教育の実態分析」、「教育相談と特別支援教育の支援の理論（理論）」、「教育相談と特別支援教育の支援の課題」、「特別支援教育についての演習」 （22 久保順也／5回） 「家族療法・短期療法の事例発表と分析：不登校の事例、機関間連携の事例」、「ロールプレイによる発表と分析：リフレクションの有効活用、オルタナティブ・ストーリーの共同構築、ミドル・リーダーによる後進育成を企図して」 （全員／2回）（共同） オリエンテーション、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>子どもの生活と行動・実態分析論（特別支援）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、特別支援学校における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について分析や評価、検討の方法論について理論的に学ぶとともに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・指導方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。</p> <p>授業の概要：「子どもの生活と行動・実態把握論」で学修した資料や知識等を土台としつつ、教育相談（適応支援領域・特別支援教育領域）の観点から、特別支援学校における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について分析や評価、検討の方法論について理論的に学ぶとともに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・指導方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回） (27 佐藤静／4回) 「特別支援学校における教育相談と適応支援の実態分析」、「特別支援学校における教育相談や適応支援のためのカウンセリングの実態」、「特別支援学校における教育相談や適応支援のためのカウンセリングの課題（実践）」、「適応支援についての演習」 (26 関口博久／4回) 「教育相談と特別支援教育の実態分析」、「教育相談と特別支援教育の支援の理論（理論）」、「教育相談と特別支援教育の支援の課題」、「特別支援教育についての演習」 (22 久保順也／5回) 「家族療法・短期療法の事例発表と分析①：不登校の事例」、「家族療法・短期療法の事例発表と分析②：機関間連携の事例」、「ロールプレイによる発表と分析①：リフレクションの有効活用」、「ロールプレイによる発表と分析②：オルタナティブ・ストーリーの共同構築」、「ロールプレイによる発表と分析③：ミドル・リーダーによる後進育成を企図して」 （全員／2回）（共同） オリエンテーション、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
------------------------------	--	-----------------------

<p>特別支援教育と学校・学級 経営</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：特別支援教育にかかわる教育制度、教育法規を前提とした、特別支援教育の組織的運営について概観する。通常学校における実践の質的向上のための方途を種々の事例を通じて学ぶ。また、地域における特別支援学校のセンター的役割やコンサルテーション活動・交流・共同学習の進め方を検討する。これらを通じて①通常学校における特別支援学級・通級指導教室の運営、特別支援教育コーディネーターと校内委員会の役割、通常学級における合理的配慮や就学の支援について、具体的内容を策定・実施できる。②特別支援教育にかかわる学校内の組織運営、研修・研究体制の整備・運用と学級における支援方法の具体を解説できる。</p> <p>授業の概要：配慮を必要とする児童生徒を含めた学級経営や学校運営の状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業展開や生徒指導等についてケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス／15回) (2 菅井裕行／6回) 「オリエンテーション・近年の配慮を必要とする子どもをめぐる状況について」、「共生社会をめざしたインクルーシブ教育についての基礎的理解」、「合理的配慮と学校教育の基本的概念理解」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営と協働」、「医療・心理・福祉の専門職との連携」、「全体の振り返りとプレゼンテーション」 (71 三科聡子／5回) 「合理的配慮の実践に関する事例検討(1) (感覚障害を中心に)」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる今日課題」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営の事例検討(1) (コーディネーターの機能)」、「インクルーシブ教育で求められる学校形態と経営方法」、「インクルーシブ教育実践に向けた課題に関するラウンドテーブルの企画・実践(1) (連携をめぐって)」 (69 武井眞澄／3回) 「合理的配慮の実践に関する事例検討(2) (肢体不自由・知的障害等)」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営の事例検討(2) (校内連携)」、「インクルーシブ教育実践に向けた課題に関するラウンドテーブルの企画・実践(2) (合理的配慮をめぐって)」 (84 野崎義和／1回) 「合理的配慮の実践に関する事例検討(3) (発達障害を中心に)」</p>	<p>オムニバス方式</p>
----------------------------	--	----------------

	<p>特別支援教育と学校・学級経営（特別支援）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：特別支援教育にかかわる教育制度、教育法規を前提とした、特別支援教育の組織的運営について概観する。特別支援学校と通常学校、それぞれにおける実践の質的向上のための方法を種々の事例を通じて学ぶ。また、地域における特別支援学校のセンター的役割やコンサルテーション活動・交流・共同学習の進め方を検討する。これらを通じて①通常学校における特別支援学級・通級指導教室の運営、特別支援教育コーディネーターと校内委員会の役割、通常学級における合理的配慮や就学の支援について、具体的内容を策定・実施できる。②特別支援教育にかかわる学校内の組織運営、研修・研究体制の整備・運用と学級における支援方法の具体を解説できる。</p> <p>授業の概要：配慮を必要とする児童生徒を含めた学級経営や学校運営の状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業展開や生徒指導等についてケーススタディを行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回） （2 菅井裕行／6回） 「オリエンテーション 近年の配慮を必要とする子どもをめぐる状況について」、「共生社会をめざしたインクルーシブ教育についての基礎的理解」、「合理的配慮と学校教育の基本的概念理解」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営と協働」、「医療・心理・福祉の専門職との連携」、「全体の振り返りとプレゼンテーション」 （71 三科聡子／5回） 「特別支援学校における合理的配慮の実践に関する事例検討（1）（感覚障害を中心に）」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる今日課題」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営の事例検討（1）（コーディネーターの機能）」、「インクルーシブ教育で求められる学校形態と経営方法」、「インクルーシブ教育実践に向けた課題に関するラウンドテーブルの企画・実践（1）（連携をめぐって）」 （69 武井真澄／3回） 「特別支援学校における合理的配慮の実践に関する事例検討（2）（肢体不自由・知的障害等）」、「幼稚園・小・中・高等学校における特別支援教育に関わる学校経営の事例検討（2）（構内連携）」、「インクルーシブ教育実践に向けた課題に関するラウンドテーブルの企画・実践（2）（合理的配慮をめぐって）」 （84 野崎義和／1回） 「特別支援学校における合理的配慮の実践に関する事例検討（3）（発達障害を中心に）」</p>	<p>オムニバス方式</p>
--	-----------------------------	---	----------------

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学級経営・学校経営に関する領域</p>	<p>安心・安全な学級・学級づくり（基礎）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：子どもたちが安心して安全に過ごすことができる、望ましい学級・学年・学校経営を行うための基本的知識と技能を身につける。</p> <p>授業の概要：学年・学校経営の基礎的事項及び技術について事例とともに学ぶ。望ましい集団づくり、いじめ未然防止と対応、外国籍の児童生徒を含む、インクルーシブな学級づくり、不登校への対応、安全の確保、危機管理について考察する。</p> <p>（オムニバス／15回） (29 佐藤美知子／2回) 「望ましい集団づくり」、「不登校への対応」 (8 本図愛実／3回) 「学校教育目標の実現と組織マネジメント」、「いじめ対応の事例」 (22 久保順也／2回) 「特別な支援を要する児童生徒の理解」、「いじめの未然防止」 (29 佐藤美知子・8 本図愛実／2回)（共同） 「特別な支援を要する児童生徒の指導方法と関係機関」、「学級・学年経営案の作成」 (49 市瀬智紀・62 高橋亜紀子／3回)（共同） 「外国籍の児童生徒の理解」、「外国籍の児童生徒の指導方法」、 「外国籍の児童生徒の指導と関係機関」 (5 梨本雄太郎／1回) 「地域関係機関との協働による生徒指導」 (24 小田隆史／1回) 「学校安全の基礎」 (全員／1回) 「まとめ」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学級経営・学校経営に関する領域</p>	<p>安心・安全な学級・学校づくり（応用）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：勤務校等の実態をふまえ、全ての子どもの学力向上を導くという点から、学校マネジメントの現状と課題から改善点を考察し、学校グランドデザインを作成する。</p> <p>授業の概要：学力と評価に関わる歴史や政策ならびに国際的な教育課題解決に関わる動向を基に、学校マネジメントの現状と課題を考察し、見えない貧困を視野に、全ての子どもの学力向上を導く学校グランドデザインを作成する。</p> <p>（オムニバス／15回） (49 市瀬智紀／1回) 「国連の教育課題追求」 (8 本図愛実／2回) 「教育政策アクターとしてのOECD」、「学力と評価に関する国内外の政策」 (29 佐藤美知子・8 本図愛実／6回)（共同） 「グランドデザインの要素分析」、「児童相談所の機能・訪問」 (62 高橋亜紀子／1回) 「より配慮が必要な子どもの学力」 (29 佐藤美知子／2回) 担当内容「道徳の授業改善による組織づくり」、「より配慮が必要な子どもの理解と指導」 (5 梨本雄太郎／2回) 「生涯学習とドロール報告」、「多様な学びと地域社会」 (全員／1回) 授業づくりの振り返り</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学 教 育 と 教 員 の あ り 方 に 関 す る 領 域</p>	<p>地域協働と学校づくり</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：学校づくりにおいては地域教育資源を活用しつつ、カリキュラム・マネジメントを行っていくことが重要である。それらを通じた子どもの学びの質の向上と各教員の成長について考え、勤務校等の実態に応じた地域協働学校プランを作成する。</p> <p>授業の概要：組織マネジメントとカリキュラム・マネジメントを土台とし、地域教育資源の活用について、その多元性、多様性を事例とともに考察し、地域協働による学校づくりの在り方について検討する。防災、歴史、地理、生物、福祉、国際関係、食文化などを取り上げる。これらを基に、授業改善による教員の資質向上を可能にする、各校の地域協働学校プランを作成する。</p> <p>(オムニバス／15回) (5 梨本雄太郎／3回) 「ガイダンス」、「地域協働による学習と学校づくりの意義と課題」、「子どもの学びの質向上と各教員の成長」 (8 本図愛実／1回) 「総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントと授業改善」 (5 梨本雄太郎・8 本図愛実／1回) 「地域教育資源の活用と事例（地域防災・学校安全）」 (8 本図愛実・24 小田隆史／1回)（共同） 「地域教育資源の活用と事例（小中学校段階）」 (49 市瀬智紀／4回) 「地域教育資源の活用と事例：（SGH／高等学校段階）、（歴史）、（生物）、（国際関係）」 (24 小田隆史／2回) 「地域教育資源の活用と事例：（防災）、（地理）」 (29 佐藤美知子・8 本図愛実／2回)（共同） 「地域教育資源の活用と事例：（多様な機関）、（子ども理解）」 (全員／1回)（共同） 地域協働学校プランの発表・討議</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>教師の成長と子どもの発達</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：教師の成長にあわせ子どもの発達について理解を深めるとともに、子どもが主体的・対話的な学びを通して発達課題の達成と社会的自立を図ることを促進できる実践的指導力を修得する。</p> <p>授業の概要：教師の成長との関連で子どもの発達について学ぶとともに、子どもの認知・非認知スキルを育成する主体的・対話的な学びのあり方を、演習・事例検討を通して発達段階ごとに考える。</p> <p>(オムニバス／15回) (25 越中康治／5回) 「教師における発達観・指導観の多様性」、「教師の成長と発達観・指導観の変化」、「発達に関する理論の基礎」、「子ども時代の認知の発達の变化」、「子ども時代の道徳性・社会性の発達の变化」 (7 田端健人／3回) 「子どもの認知・非認知スキルの発達と主体的・対話的な学び」、「子どもの道徳性と討議倫理の発達段階」 (60 倉戸テル・53 小塩さとみ・7 田端健人／2回)（共同） 「子どもの身体表現と非認知スキル」、「音楽によるコミュニケーションとコミュニティ形成」 (25 越中康治・29 佐藤美知子／1回)（共同） 「学校現場における指導の実際：幼児期」 (7 田端健人・29 佐藤美知子／2回) 担当内容「学校現場における指導の実際：小学校」、「学校現場における指導の実際：中学校・高等学校」 (全員／2回)（共同） オリエンテーション、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

学校における実習（基礎実践）	学校課題探究実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 【テーマ】 学校課題の「把握」 【到達目標】 院生各自の研究テーマに関わる学校課題（教科指導、学級づくり、子ども支援等）の実態について把握し、自らの学習指導計画を立てる基礎とすることができる。</p> <p>授業の概要： 院生が、各自、自分のテーマに関わる教科単位についての教材、指導、子どもの実態について把握し、自らの学習指導計画を立てる基礎をつくる。附属学校園や実習拠点校を活用し、授業参観等により、院生各自の研究テーマに即して、各校種・教科・領域および単元における学習指導の課題と子どもの実態を把握する。</p>	
	学校課題探究実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 【テーマ】 学校課題の「把握」を通して得られた知見の実践への「適応」 【到達目標】 学校課題（授業、学級経営、子ども支援等）の把握に基づいて自ら教育実践を行い、その結果を省察し、自らの実践の課題を見出すことができる。</p> <p>授業の概要： 自らの授業実践の結果を省察し、授業、学級経営、子ども支援をどのように立案・実施すべきか、自己の教育課題を見出す。学校課題実践研究Ⅰでの学修成果をもとに、各院生の研究テーマに関わる教科・領域等について一つの単元全体・各時の学習指導計画を立て、授業実践を行う。</p>	

<p>教育における臨床の知</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 「深い学び」の実現にむけて、児童・生徒の内面世界を理解し、教材の価値を発見し、質の高い授業を創出する、教育における臨床の知を追求する。子どもの心理と教科の論理をつなぐ知とはどのようなものかを知り、その知を身に付ける実践と研究のあり方を探る。</p> <p>授業の概要： 授業における学習の事実への臨床的研究により、児童・生徒の内面世界の理解を深め、教材の魅力を発見し、「深い学び」の実現にむけた指導のあり方を探る。実際の授業の事例を検討しながら、子どもの学習の質、教師の指導のあり方を省察し、改善する臨床の知を求め る。</p> <p>(オムニバス／15回) (25 越中康治・19 金田裕子／2回) (共同) 「「深い学び」が求められる歴史的背景」、「「深い学び」を導く理論」 (30 澤田茂実／2回) 「「深い学び」の実際」、「授業における子どもの事実の臨床的研究(4)：教室の事例」 (3 吉村敏之／2回) 「授業研究の歴史：子どもの事実へのまなざし、教師集団の組織」 (19 金田裕子／2回) 「授業研究の現在：世界に広がる授業研究、モードシフト」 (25 越中康治／2回) 「児童・生徒の内面世界への接近」、「児童・生徒の内面世界の理解」 (3 吉村敏之・30 澤田茂実／1回) (共同) 「授業における子どもの事実の臨床的研究(1)：観る」 (19 金田裕子・30 澤田茂実／1回) (共同) 授業における子どもの事実の臨床的研究(2)：記録する (25 越中康治・30 澤田茂実／1回) (共同) 授業における子どもの事実の臨床的研究(3)：省察する (全員／2回) (共同) オリエンテーション：「深い学び」とは何か、「深い学び」にむけた臨床の知の創造</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>教育実践記録と授業分析論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 授業における子どもの事実が記され、事実に基づく教師の省察が示された、教育実践記録をよみ解く。さらに自身の授業について、エピソード記述を行い、省察する。記録をよみ、書くことにより、子どもの学習の道筋をとらえ、教材を追求し、学習集団を組織できる力を培う。</p> <p>授業の概要 本学に蓄積されている教育実践アーカイブを活用し、授業の文書記録と映像記録をもとに、記録に現れた授業に関する典型的な課題を見出す。自身の授業実践の経験を省察する方法論、自身の授業実践の事実と事実から得た知見をエピソード記述として描く方法論を身に付ける。</p> <p>(オムニバス／15回) (3 吉村敏之／3回) 「文書記録を読む：子ども理解、教材研究、授業の展開」 (19 金田裕子／4回) 「エピソード記述の方法」、「映像記録をよむ：子ども理解、教材研究、授業の展開」 (全員／8回) 「オリエンテーション：エピソード記述とは何か」、「映像記録による実践の省察」、「教育実践記録を用いた子ども理解」、「教育実践記録を用いた教材研究」、「エピソード記述の交流：事例収集、事例分析」、「エピソード記述による実践の省察」</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

<p>社会変動と学力論</p>	<p>テーマ：現在と将来の学校教育はいかなる学力を培うべきか 到達目標：現在および将来の学校教育に求められる学力の性格がどのようなものであり、いかに実現していくべきかを、学校の課題と子どもの実態に即して理解できる。</p> <p>授業の概要：変動の激しい現代日本の社会において、学校教育に求められる課題の変遷と現状について把握するとともに、こうした学校に要請される社会的課題が、学校で育てるべき「学力」の特徴と方向性等について持っている意味について、教育学的に構想するために必要な知見を学ぶ。</p> <p>(オムニバス／15回) (13 本田伊克／8回) 「社会の変化と学力の関係をどうとらえるか」、「＜教育と社会＞と学力問題：1970年代、1980 - 90年代、2000年代～現在」 (3 吉村敏之／6回) 「＜教育と社会＞と学力問題：1950年代、1960年代」、「教育実践と評価はどう変わってきたか：生活綴方教育の歩みを通して、相対評価をいかに超克するか、キー・コンピテンシーと評価」、「競争から共生を目指す指導の在り方とは」 (13 本田伊克・3 吉村敏之／1回) これからの＜教育と社会＞関係と学力（まとめ）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>クロスカリキュラムの学習と評価</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 授業のテーマ：教科横断的な学習を進めるカリキュラムと評価 到達目標：クロスカリキュラム（教科横断）型学習に関する理論的・実践的知見を、学校の課題と子どもの実態に即して理解することができる。</p> <p>授業の概要： クロスカリキュラム（教科横断）型学習は、資質・能力の育成を図るカリキュラム編成と授業づくりのなかで殊に要請されるものである。本講義では、教科横断型学習の意義と、具体的な単元・素材に即した課題設定・教材開発・授業づくりという一連の流れに関する知見を学ぶ。</p> <p>(オムニバス／15回) (13 本田伊克／2回) 「学校におけるクロスカリキュラム学習の背景と意義」、「クロスカリキュラム学習の授業づくりと評価」 (4 齊藤千映美／6回) 「クロスカリキュラム学習の指導過程：（事例研究）、（演習）、（討論）」、「学びに向かうクロスカリキュラム学習の授業づくり：（事例研究）、（演習）、（討論）」 (67 溝田浩二／6回) 「身近な環境に根ざしたクロスカリキュラム学習の課題設定：（事例研究）、（演習）、（討論）」、「学校を取り巻く環境とクロスカリキュラム学習の教材開発：（事例研究）、（演習）、（討論）」 (全員／1回)（共同） これからのクロスカリキュラム学習を構想する（まとめ）</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・国語科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 国語科教育の理論と実践とを関連づけながら教材を開発したり授業を検証したりすることについて、基礎的な力を身に付けることができる。</p> <p>授業の概要： 国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／1回) オリエンテーション (44 児玉忠／6回) 「学習指導要領(国語)の変遷：(領域の編成とその意図)、(校種別・学年別の系統性)」 (47 中地文／3回) 「国語科教育の実践をめぐる現状と課題：(「読むこと)」」、 「「読むこと(文学的文章)」の実践動向の検討」、 「「読むこと(文学的文章)」の実践成果の活用」 (35 遠藤仁／4回) 「国語科教育の実践をめぐる現状と課題：(「国語の特質)」」、 「「読むこと(説明的文章)」の実践動向の検討」、 「「読むこと(説明的文章)」の実践成果の活用」、 「「伝統的な言語文化と国語の特質)」の実践動向の検討」 (47 中地文・35 遠藤仁／1回) 「「伝統的な言語文化と国語の特質)」の教材解釈と教材開発」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
<p>授業検証と教科内容開発 (応用・国語科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 国語科教育の理論と実践とを関連づけながら教材を開発したり授業を検証したりすることについて、応用的な力を身に付ける。</p> <p>授業の概要： 国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／5回) 「ガイダンス」、 「国語科の教科内容をめぐる課題：(「書くこと読むこと)」、 (「伝統的な言語文化」「国語の特質)」」、 「授業実践の検証：(教材開発・教材選択の妥当性)、 (学習課題・学習過程の有効性)」 (44 児玉忠／6回) 「国語科の教科内容をめぐる課題(「話すこと聞くこと)」」、 「授業実践の検証：(学習者の実態や発達特性の把握)、 (学習活動・学習形態の適切性)、 (単元構想・カリキュラム・マネジメント)」」、 「教材開発と授業改善：(「話すこと聞くこと)」、 (「書くこと)」」 (47 中地文／2回) 「教材開発と授業改善：(「読むこと」：文学的文章教材)、 (「伝統的な言語文化」：古文・漢文)」 (35 遠藤仁／2回) 「教材開発と授業改善：(「読むこと」：説明的文章教材)、 (「国語の特質)」」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・社会科)</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ： 社会科に関わる授業検証や学術的な専門知識・概念などをもとにして、理論的な思考を涵養しながら、具体的な教材として内容構成できるようにすることを到達目標とする。 テーマは、「社会科における教材開発力の育成」とする。</p> <p>授業の概要： 社会科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (9 吉田剛・42 西城潔・83 佐々木達・65 田中良英・14 堀田幸義・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美／7回) 「ガイダンスおよび教材開発法」、「学習指導要領と小学校社会科の教科内容」、「学習指導要領と中学校社会科の教科内容」、「小学校社会科の教科内容をめぐる課題」、「中学校社会科の教科内容をめぐる課題」、「小学校社会科における教材開発演習」、「まとめ」 (9 吉田剛・42 西城潔・83 佐々木達／1回) 「地理的分野における教材開発演習」 (9 吉田剛・65 田中良英・14 堀田幸義／1回) 「歴史的分野における教材開発演習」 (9 吉田剛・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美／1回) 「公民的分野における教材開発演習」 (全員／5回) 「教材開発の成果の中間報告会」、「教材開発に向けた課題」、「教材開発に向けた改善」、「教材開発の成果の全体検討会」、「教材開発の成果の最終報告会」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
---------------------------------	--	-----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・社会科)</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ： 社会科に関わる授業検証や学術的な専門知識・概念などをもとにして、具体的な教科指導の在り方を検討し、模擬授業を通して実践的に省察できるようになることを到達目標とする。テーマは、「社会科における教科指導力の育成」とする。</p> <p>授業の概要： 社会科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (9 吉田剛・83 佐々木達・42 西城潔・65 田中良英・14 堀田幸義・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美／4回) 「ガイダンスおよび授業検証法」、「小学校社会科における実践をめぐる現状と課題」、「模擬授業による検証(小学校社会科)」、「まとめ」 (9 吉田剛・83 佐々木達・42 西城潔／2回) 「地理的分野における実践をめぐる現状と課題」、「模擬授業による検証(地理的分野)」 (9 吉田剛・65 田中良英・14 堀田幸義／2回) 「歴史的分野における実践をめぐる現状と課題」、「模擬授業による検証(歴史的分野)」 (9 吉田剛・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美／2回) 「公民的分野における実践をめぐる現状と課題」、「模擬授業による検証(公民的分野)」 (9 吉田剛・83 佐々木達・42 西城潔・65 田中良英・14 堀田幸義・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美・38 松岡尚敏／2回) 「模擬授業による改善(小学校社会科)」、「分野別の教科指導の計画の改善」 (9 吉田剛・83 佐々木達・42 西城潔・38 松岡尚敏／1回) 「模擬授業による改善(地理的分野)」 (9 吉田剛・65 田中良英・14 堀田幸義・38 松岡尚敏／1回) 「模擬授業による改善(歴史的分野)」 (9 吉田剛・64 川崎惣一・66 石田雅樹・79 山内明美・38 松岡尚敏／1回) 「模擬授業による改善(公民的分野)」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
---------------------------------	---	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) A</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 算数科における学習指導上の課題を踏まえ、教科内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、数学的活動について議論する。また、教授・学習の理論研究に基づき、学習指導とその評価に関する基礎を身につける。</p> <p>授業の概要： 算数科・数学科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「イントロダクション」、「まとめ」 (16 市川啓／3回) 「算数科における評価の方法の検討」、「算数科における評価の方法の検討」、「算数科におけるカリキュラムマネジメント」 (72 佐藤得志・33 高瀬幸一／1回) 「算数科における「数学的な見方・考え方」についての検討と理解」 (54 田谷久雄・55 鎌田博行／2回) 「算数科の「数と計算」と「図形」領域における教科内容構成」、「算数科の「数と計算」と「図形」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「算数科の「数と計算」と「図形」領域における学習指導とその評価」 (55 鎌田博行・72 佐藤得志／2回) 「算数科の「図形」と「測定(変化と関係)」領域における教科内容構成」、「算数科の「図形」と「測定(変化と関係)」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・55 鎌田博行・72 佐藤得志／1回) 「算数科の「図形」と「測定(変化と関係)」領域における学習指導とその評価」 (72 佐藤得志・54 田谷久雄／2回) 「算数科の「測定(変化と関係)」と「データの活用」領域における教科内容構成」、「算数科の「測定(変化と関係)」と「データの活用」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・54 田谷久雄・72 佐藤得志／1回) 「算数科の「測定(変化と関係)」と「データの活用」領域における学習指導とその評価」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
--------------------------------------	--	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) A</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 算数科における学習指導上の課題を踏まえ、教科内容の背景となる学問体系の基礎を十分に理解した上で、教授・学習の理論研究に基づき、質の高い数学的活動を軸にした授業デザインができる。また、学習結果の検証に基づき授業改善ができる。</p> <p>授業の概要： 算数・数学科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／4回) 「イントロダクション」、「授業デザインに基づく授業実践」、「授業実践に基づく事後検討会」、「まとめ」 (16 市川啓／2回) 「算数科の授業実践上の課題の検討」、「算数科における学習の様相の見取り：「個の学習」の分析・考察の方法」 (72 佐藤得志・55 鎌田博行／2回) 「数学的活動の充実のための課題開発」、「算数科の「図形」と「測定（変化と関係）」領域における数学的活動の構成」 (54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「算数科の「数と計算」と「図形」領域における数学的活動の構成」 (16 市川啓・54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「算数科の「数と計算」と「図形」領域における授業デザイン」 (16 市川啓・55 鎌田博行・72 佐藤得志／1回) 「算数科の「図形」と「測定（変化と関係）」領域における授業デザイン」 (72 佐藤得志・33 高瀬幸一／1回) 「算数科の「測定（変化と関係）」と「データの活用」領域における数学的活動の構成」 (16 市川啓・72 佐藤得志・33 高瀬幸一／1回) 「算数科の「測定（変化と関係）」と「データの活用」領域における授業デザイン」 (16 市川啓・33 高瀬幸一・54 田谷久雄／2回) 「算数科における数学的活動を軸とした授業の分析・考察の方法：教授の視点から、学習の視点から」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
--------------------------------------	--	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・算数、数学科) B</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 数学科における学習指導上の課題を踏まえ、教科内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、数学的活動について議論する。また、教授・学習の理論研究に基づき、学習指導とその評価に関する非基礎を身につける。</p> <p>授業の概要： 算数科・数学科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「イントロダクション」、「まとめ」 (16 市川啓／2回) 「数学科における評価の方法の検討」、「数学科における学習内容と指導上の課題」 (72 佐藤得志、33 高瀬幸一／1回) 「数学科における「数学化」と「数学的に考える」ことの検討と理解」 (54 田谷久雄・55 鎌田博行／2回) 「数学科の「数と式」と「図形（と計量）」領域における教科内容構成」、「数学科の「数と式」と「図形（と計量）」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「数学科の「数と式」と「図形（と計量）」領域における学習指導とその評価」 (55 鎌田博行・33 高瀬幸一／2回) 「数学科の「図形（と計量）」と「関数（微分積分）」領域における教科内容構成」、「数学科の「図形（と計量）」と「関数（微分積分）」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・55 鎌田博行・33 高瀬幸一／1回) 「数学科の「図形（と計量）」と「関数（微分積分）」領域における学習指導とその評価」 (72 佐藤得志・54 田谷久雄／2回) 「数学科の「関数（微分積分）」と「データの活用」領域における教科内容構成」、「数学科の「関数（微分積分）」と「データの活用」領域における数学的活動の検討」 (16 市川啓・54 田谷久雄・72 佐藤得志／1回) 「数学科の「関数（微分積分）」と「データの活用」領域における学習指導とその評価」 (16 市川啓・33 高瀬幸一・72 佐藤得志／1回) 「数学科におけるカリキュラムマネジメントに関する基礎的考察」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
--------------------------------------	---	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・算数、数学科) B</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 数学科における学習指導上の課題を踏まえ、教科内容の背景となる学問体系の基礎を十分に理解した上で、教授・学習の理論研究に基づき、質の高い数学的活動を軸にした授業デザインができる。また、学習結果の検証に基づき授業改善ができる。</p> <p>授業の概要： 算数・数学科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／4回) 「イントロダクション」、「数学科の授業実践」、「授業実践の基づく事後研究会」、「まとめ」 (16 市川啓／2回) 「算数科から数学科への接続を捉える視点」、「算数科から数学科への円滑な接続を意図した授業改善」 (54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「数学科の「数と式」と「図形（と計量）」領域における数学的活動の構成」 (16 市川啓・54 田谷久雄・55 鎌田博行／1回) 「数学科の「数と式」と「図形（と計量）」領域における授業デザイン」 (55 鎌田博行・72 佐藤得志／1回) 「数学科の「図形（と計量）」と「関数（微分積分）」領域における数学的活動の構成」 (16 市川啓・55 鎌田博行・72 佐藤得志／1回) 「数学科の「図形（と計量）」と「関数（微分積分）」領域における授業デザイン」 (72 佐藤得志・33 高瀬幸一／1回) 「数学科の「関数（微分積分）」と「データの活用」領域における数学的活動の構成」 (16 市川啓・72 佐藤得志・33 高瀬幸一／1回) 「数学科の「関数（微分積分）」と「データの活用」領域における授業デザイン」 (33 高瀬幸一・54 田谷久雄／2回) 「学習者の数学的探究の道具としてのICTの活用」、「学習者の数学的探究の道具としてのICTの活用を前提とした課題開発」 (16 市川啓・54 田谷久雄・33 高瀬幸一／1回) 「学習者の数学的探究の道具としてのICTの活用」に焦点を当てた授業デザイン」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
--------------------------------------	---	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) A</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 理科の基本的な概念のうち「エネルギー」と「粒子」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、学界における新しい考え方などについて議論する。また、授業の設計・検証を行う力を身につけ、質の高い教科指導を学校現場で実践できるような「確かな力」を獲得する。</p> <p>授業の概要： 理科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「まとめと振り返り」 (15 渡辺尚・77 中山慎也／3回) 「小学校理科における学習内容と指導上の課題：(教科の目標)、(理科の内容構成)、(学年目標と学年内容の構成の考え方)」 (11 内山哲治／1回) 「「エネルギー」領域における教科内容構成① 電気・磁気」 (52 福田善之／1回) 「「エネルギー」領域における教科内容構成② エネルギー・電子・放射線」 (81 西山正吾／1回) 「「エネルギー」領域における教科内容構成③ 熱・波・音・光」 (52 福田善之・11 内山哲治・81 西山正吾／2回) 「「エネルギー」領域における授業設計」、「「エネルギー」領域における授業検証」 (45 猿渡英之／1回) 「「粒子」領域における教科内容構成① 元素・原子核・イオン・放射能」 (58 笠井香代子／1回) 「「粒子」領域における教科内容構成② 原子・電子・分子」 (45 猿渡英之・58 笠井香代子／3回) 「「粒子」領域における教科内容構成③ 物質の変化」、「「粒子」領域における授業設計」、「「粒子」領域における授業検証」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
----------------------------------	--	-----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・理科) B</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 理科の基本的な概念のうち「生命」と「地球」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている内容の背景となる学問体系の基礎を学ぶとともに、学界における新しい考え方などについて議論する。また、授業の設計・検証を行う力を身につけ、質の高い教科指導を学校現場で実践できるような「確かな力」を獲得する。</p> <p>授業の概要： 理科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「まとめと振り返り」 (15 渡辺尚・77 中山慎也／3回) 「小学校理科における学習内容と指導上の課題：(教科の目標)、(理科の内容構成)、(学年目標と学年内容の構成の考え方)」 (10 出口竜作／1回) 「生命」領域における教科内容構成① 細胞・生殖 (75 棟方有宗／1回) 「生命」領域における教科内容構成② 動物の分類・体のづくり (76 小林恭士／1回) 「生命」領域における教科内容構成③ 植物の分類・DNA (10 出口竜作・75 棟方有宗・76 小林恭士／2回) 「生命」領域における授業設計」、「生命」領域における授業検証」 (56 菅原敏／1回) 「地球」領域における教科内容構成① 気象情報・大気 (46 高田淑子／1回) 「地球」領域における教科内容構成② 太陽・月・星 (34 川村寿郎／1回) 「地球」領域における教科内容構成③ 岩石・鉱物・地層・地球史」 (34 川村寿郎・46 高田淑子・56 菅原敏／2回) 「地球」領域における授業設計」、「地球」領域における授業検証」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
----------------------------------	---	-----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・理科) A</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 理科の基本的な概念のうち「エネルギー」と「粒子」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている観察・実験を学校現場で実施する際に不可欠となる技能、ならびに結果を分析・解釈する力を身に付ける。また、新しい教材・教具の開発や改良に取り組み、質の高い教科指導を学校現場で実践できるような「確かな力」を獲得する。</p> <p>授業の概要： 理科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「まとめと振り返り」 (15 渡辺尚・77 中山慎也／3回) 「小学校理科における観察・実験と指導上の課題：(指導計画作成上の配慮事項)、(内容の取扱いについての配慮事項)、(事故防止、薬品などの管理)」 (11 内山哲治／1回) 「「エネルギー」領域における観察・実験の指導① 電気・磁気」 (52 福田善之／1回) 「「エネルギー」領域における観察・実験の指導② エネルギー・電子・放射線」 (81 西山正吾／1回) 「「エネルギー」領域における観察・実験の指導③ 熱・波・音・光」 (52 福田善之・11 内山哲治・81 西山正吾／2回) 「「エネルギー」領域における教材・教具の考案」、「「エネルギー」領域における教材・教具の作成」 (45 猿渡英之／1回) 「「粒子」領域における観察・実験の指導① 元素・原子核・イオン・放射能」 (58 笠井香代子／1回) 「「粒子」領域における観察・実験の指導② 原子・電子・分子」 (45 猿渡英之・58 笠井香代子／3回) 「「粒子」領域における観察・実験の指導 物質の変化」、「「粒子」領域における教材・教具の考案」、「「粒子」領域における教材・教具の作成」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
----------------------------------	--	-----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・理科) B</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 理科の基本的な概念のうち「生命」と「地球」に関して、学習指導要領や教科書で扱われている観察・実験を学校現場で実施する際に不可欠となる技能、ならびに結果を分析・解釈する力を身に付ける。また、新しい教材・教具の開発や改良に取り組み、質の高い教科指導を学校現場で実践できるような「確かな力」を獲得する。</p> <p>授業の概要： 理科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身に付けることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「まとめと振り返り」 (15 渡辺尚・77 中山慎也／3回) 「小学校理科における観察・実験と指導上の課題：(指導計画作成上の配慮事項)、(内容の取扱いについての配慮事項)、(事故防止、薬品などの管理)」 (10 出口竜作／1回) 「「生命」領域における観察・実験の指導 細胞・生殖」 (75 棟方有宗／1回) 「「生命」領域における観察・実験の指導 動物の分類・体のつくり」 (76 小林恭士／1回) 「「生命」領域における観察・実験の指導③ 植物の分類・DNA」 (10 出口竜作・75 棟方有宗・76 小林恭士／2回) 「「生命」領域における教材・教具の考案」、「「生命」領域における教材・教具の作成」 (56 菅原敏／1回) 「地球」領域における観察・実験の指導 気象観測・大気 (46 高田淑子／1回) 「「地球」領域における観察・実験の指導② 太陽・月・星」 (34 川村寿郎／1回) 「「地球」領域における観察・実験の指導③ 岩石・鉱物・地層・地球史」 (34 川村寿郎・46 高田淑子・56 菅原敏／2回) 「「地球」領域における教材・教具の考案」、「「地球」領域における教材・教具の作成」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
----------------------------------	---	-----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・英語科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 小学校外国語活動及び外国語科に焦点を当て、第一に、授業の成果を検証・評価する学術的な専門知識を習得する。第二に、その学術的な専門知識を活用し、教材として実際的かつ具体的に構成していく活動を行う。児童の特性や発達段階に合わせて、小学校外国語活動及び外国語科の授業を行うための指導力や英語力を向上させる。</p> <p>授業の概要： 英語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／5回) 「オリエンテーション」、「学習指導要領による外国語教育についての基本的な知識・理解：(小学校外国語活動及び外国語科)、(中・高等学校外国語科)(小との接続の観点)」、「指導案発表」、「模擬授業、まとめ」 (23 鈴木渉／3回) 「英語科における実践をめぐる現状と課題：(外国語教育についての知識)、(第二言語習得についての知識)、(指導技術についての知識)」 (23 鈴木渉・78 リースエイドリアン／4回) 「実践記録の検討と授業づくり：(指導計画)、(ティーム・ティーチング、ICT等の活用、教材研究)、(学習状況の評価)」、「授業検証に必要な知識としての第二言語習得に関する基本的な知識(個人差)」 (23 鈴木渉・32 高橋潔／1回) 授業検証に必要な英語に関する基本的な知識 (23 鈴木渉・57 竹森徹士／2回) 「授業検証に必要な知識としての英語文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」、「授業検証に必要な知識としての異文化理解」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
<p>授業検証と教科内容開発 (応用・英語科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門的知識に基づいて授業内容を開発し、実際に自分自身が実践した授業や他者の実践記録等を分析する活動を通して、授業検証を絶えず行うことによって、児童・生徒の現状や学校の特性・特色等に応じた、小学校外国語活動及び外国語科の授業を実践するための指導力、およびその基礎となる英語力を習得する。</p> <p>授業の概要： 小学校外国語活動及び外国語科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／3回) 「オリエンテーション」、「指導案発表」、「模擬授業」 (23 鈴木渉／4回) 授業実践の検証とカリキュラム・マネジメント：(小学校外国語活動及び外国語科)、(中・高等学校外国語科)(小との接続の観点)、「授業実践の検証と授業設計」、「授業実践の検証と学習評価」 (23 鈴木渉・78 リースエイドリアン／3回) 「授業実践の検証と児童・生徒の資質・能力育成(小学校外国語活動)」、「英語コミュニケーション領域における教科内容開発と授業改善」、「第二言語習得領域における教科内容開発と授業改善」 (23 鈴木渉・32 高橋潔／2回) 「授業実践の検証と児童・生徒の資質・能力育成(小学校外国語科)」、「英語学領域における教科内容開発と授業改善」 (23 鈴木渉・57 竹森徹士／3回) 「授業実践の検証と児童・生徒の資質・能力育成(中学校外国語科)」、「英語文学領域における教科内容開発と授業改善」、「異文化理解領域における教科内容開発と授業改善」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・技術科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：技術の見方・考え方を育む授業設計「生活や社会を支える技術」 到達目標：学習指導要領の指導要素「生活や社会を支える技術」に関する授業の設計と評価に関する実践的な知識を獲得し、それに関する専門的な知識及び技能を習得することができる。</p> <p>授業の概要 技術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／5回) 「オリエンテーション」、「学習指導要領における技術科の内容構成と理念」、「技術科の実践をめぐる現状と課題(1)教科内容の視点から」、「授業実践レビュー演習」、「まとめと振り返り」 (68 安藤明伸／1回) 技術科の実践をめぐる現状と課題(2)指導法の視点から (59 門田和雄／5回) 「機械とエネルギー変換における指導の原理・理論基礎(1)(機械的なエネルギー変換の観点から)」、「機械とエネルギー変換における指導の原理・理論基礎(2)(動力伝達機構の観点から)」、「材料加工における原理の指導方法」、「機械と材料加工における技術の仕組みの指導方法」、「機械と材料における技術の見方・考え方の捉え方」 (1 水谷好成／4回) 「電気とエネルギー変換における指導の原理・理論基礎(1)(アナログ回路の観点から)」、「電気とエネルギー変換における指導の原理・理論基礎(2)(デジタル回路の観点から)」、「電気の利用における技術の仕組みの指導方法」、「電気における技術の仕組みの指導方法」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
<p>授業検証と教科内容開発 (応用・技術科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：技術の見方・考え方を育む授業設計「技術による問題の解決」 到達目標：学習指導要領の指導要素「技術による問題の解決」に関する授業の設計と評価に関する実践的な知識を獲得し、それに関する専門的な知識及び技能を習得することができる。</p> <p>授業の概要 技術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／4回) 「オリエンテーション」、「学習指導要領の系譜と技術科の教科内容」、「課題解決に必要な教科内容構成演習」、「まとめと振り返り」 (68 安藤明伸・59 門田和雄／2回) 「技術科における教科内容をめぐる課題(1)機械領域」、「機械と材料加工における技術の仕組みの発展的な指導方法」 (68 安藤明伸・1 水谷好成／2回) 「技術科における教科内容をめぐる課題(2)電気領域」、「電気の利用における技術の仕組みの発展的な指導方法」 (59 門田和雄／4回) 「機械とエネルギー変換における教科内容開発(1)(機械的なエネルギー変換の応用的な観点から)」、「機械とエネルギー変換における教科内容開発(2)(動力伝達機構の応用的な観点から)」、「材料加工における原理の発展的な指導方法」、「機械と材料における技術の見方・考え方の確実な捉え方」 (1 水谷好成／3回) 「電気とエネルギー変換における教科内容開発(1)(アナログ回路の応用的な観点から)」、「電気とエネルギー変換における教科内容開発(2)(デジタル回路の応用的な観点から)」、「電気における技術の見方・考え方の確実な捉え方」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>

専門 高度 化探 究科 目	授業検証と教科内容開発 (基礎・家庭科)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 家庭科において学習成果を検証・評価するために必要な専門知識と、家庭科の内容・科目の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材とを組み合わせ、具体的にカリキュラムを構成し、新たな教材を開発する資質・能力を身につける。</p> <p>授業の概要： 家庭科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／3回) 「オリエンテーション」、「授業研究・教材研究のテーマ設定」 「テーマごとの討論と検討」 (39 小野寺泰子／1回) 「学習指導要領の変遷(小学校学習指導要領の家庭科の変遷)」 (18 香曾我部琢／2回) 「小学校家庭科の教科内容をめぐる課題(家族・家庭生活)」、「中学校家庭科の教科内容をめぐる課題(保育・生活と福祉)(小との接続の観点)」 (41 亀井文／2回) 「小学校家庭科の教科内容をめぐる課題(衣食住の生活)」、「中学校家庭科の教科内容をめぐる課題(4)(栄養・食品・公衆衛生・調理)(小との接続の観点)」 (61 菅原正則／2回) 「小学校家庭科の教科内容をめぐる課題(消費生活・環境)」 (48 西川重和／1回) 「中学校家庭科の教科内容をめぐる課題(服飾・ファッション・手芸)(小との接続の観点)」 (41 亀井文・48 西川重和／1回) 「家庭科における「見方・考え方」の実際と特色」 (18 香曾我部琢・61 菅原正則／1回) 「家庭科における「主体的・対話的な深い学び」の実際」 (41 亀井文・18 香曾我部琢／1回) 「カリキュラム・マネジメントの実際(保育・栄養)」 (61 菅原正則・48 西川重和／1回) 「カリキュラム・マネジメントの実際(服飾・住生活)」 (18 香曾我部琢・48 西川重和／1回) 教材研究の方法と実際</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
---------------------------	-------------------------	--	--------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・家庭科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 家庭科の授業実践を批判的に捉える力を育むと同時に、各内容・科目の背景となる学問に関する国際的な動向、学術的な専門知識を基礎に、他教科や特別活動、総合的な探究の時間と関連付けた教材の開発ができる専門的な資質の向上を図る。</p> <p>授業の概要： 家庭科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／1回) 「オリエンテーション」 (18 香曾我部琢／3回) 「小学校家庭科の実践をめぐる現状と課題」、「授業実践記録の批判的読み取り(小学校：家族・家族生活)」、「家庭科における幼児との交流の方法と理論」 (39 小野寺泰子／1回) 「中学校家庭科の実践をめぐる現状と課題(小との接続の観点)」 (41 亀井文／2回) 「食に関する教育の国際的な動向について」、「授業実践記録の批判的読み取り(小学校：衣食住の生活)」 (61 菅原正則・48 西川重和／3回) 「住居・被服に関する教育の国際的な動向について」、「生活産業の各分野についての理解と考察」、「授業実践(服飾文化・住居デザイン)」 (61 菅原正則／1回) 「授業実践記録の批判的読み取り(小学校：消費生活・環境)」 (61 菅原正則・41 亀井文／1回) 「家庭科と総合的な探究、特別活動との横断的な学習について」 (41 亀井文・18 香曾我部琢／2回) 「家庭科と他の教科との領域融合の検証」、「授業実践(保育・食品)」 (41 亀井文・18 香曾我部琢・61 菅原正則・48 西川重和／1回) 「研究成果の発表」 (48 西川重和／1回) 研究成果の報告書作成</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
---------------------------------	--	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・音楽科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 音楽科における児童・生徒の発達の課題を検討した上で、歌唱、器楽、創作（音楽づくり）、鑑賞の授業における教材の再検討を行い、それとともなって必要とされる専門的知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 音楽科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際のかつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「総合討論・検討」 (63 原田博之／3回) 「学習指導要領の変遷と検討」、「中・高等学校における歌唱活動の授業分析と検証（小との接続の観点）」、「歌唱指導における専門的知識について」 (17 小畑千尋／1回) 音楽科の実践をめぐる現状と課題 (63 原田博之・17 小畑千尋／1回) 小学校における歌唱活動の授業分析と検証 (60 倉戸テル・63 原田博之／1回) 小学校における器楽活動の授業分析と検証 (60 倉戸テル／2回) 「中・高等学校における器楽活動の授業分析と検証（小との接続の観点）」、「器楽指導における専門的知識について」 (17 小畑千尋・87 吉川和夫／1回) 音楽づくり・創作活動の授業分析と検証 (87 吉川和夫／1回) 音楽づくり・創作指導における専門的知識について (60 倉戸テル・53 小塩さとみ／1回) 小学校における鑑賞の授業分析と検証鑑賞 (53 小塩さとみ・87 吉川和夫／1回) 「中・高等学校における鑑賞指導の授業分析と検証（小との接続の観点）」 (53 小塩さとみ／1回) 「鑑賞指導における専門的知識について」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
---------------------------------	--	----------------------------

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・音楽科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 小学校の音楽科教育の歌唱、器楽、創作（音楽づくり）、鑑賞における現代的課題、実践動向を検討した上で、新たな教材開発とそれに伴って必要とされる技能を習得することを目標とする。</p> <p>授業の概要： 音楽科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「総合討論・検討」 (17 小畑千尋／2回) 「小学校の音楽科における教科内容をめぐる課題：（指導計画作成上の配慮事項）、（内容の取扱いと指導上の配慮事項）」 (63 原田博之／3回) 「中・高等学校の音楽科における教科内容をめぐる課題（小との接続の観点）」、「小学校の歌唱活動を通して育成する資質・能力の検討」、「歌唱指導における教科内容開発とその検討」 (60 倉戸テル／2回) 「小学校の器楽活動を通して育成する資質・能力の検討」、「器楽指導における教科内容開発とその検討」 (17 小畑千尋・87 吉川和夫／1回) 「音楽づくり・創作の活動を通して育成する資質・能力の検討」 (87 吉川和夫／1回) 「音楽づくり・創作の活動における教科内容開発とその検討」 (53 小塩さとみ／1回) 「小学校の鑑賞活動を通して育成する資質・能力の検討」 (53 小塩さとみ・87 吉川和夫／1回) 「鑑賞指導における教科内容開発とその検討」 (60 倉戸テル・53 小塩さとみ／2回) 「表現と鑑賞との関連：小学校における授業開発と検討、中・高等学校における授業開発と検討（小との接続の観点）」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・美術科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 美術科のカリキュラム研究または授業研究を行う。具体的な実践事例に基づいて、授業の目標、教科内容、教材づくり、学習指導について問題意識を高め説明できるようにする。具体的な実践事例に基づいて、授業とカリキュラムの関係を理解し説明できるようにする。</p> <p>授業の概要： 美術科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／3回) 「オリエンテーション」、「カリキュラム研究・授業研究・教材研究のテーマづくり」、「総合討論とまとめ」 (70 村上タカシ／7回) 「学習指導要領の変遷：（教科の目標）（初等美術・図画工作）、（内容の構成）（初等美術・図画工作）」 「美術科の実践をめぐる現状と課題：（小学校図画工作科の課題）、（中学校美術科の課題）（小との接続の観点）、（高等学校美術科の課題）（小との接続の観点）」 「美術科と学校外教育との連携をめぐる現状と課題：（社会とアート）、（時代性とアート）」 (73 安彦文平／5回) 「カリキュラム概念と授業設計についての検討」、「カリキュラムと教材開発についての検討：（図画工作編）、（平面表現を考える）、（平面表現の実践、基礎編）、（平面表現の実践、応用編）」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>

<p>授業検証と教科内容開発 (応用・美術科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 図画工作科教育における実践研究をもとに目標・内容づくり・教材づくり・学習指導を検討し、カリキュラムづくりと授業づくりに対する問題意識を高める。ここでは特に教育実践における絵画表現と立体表現の観点から、具体的な授業実践に即しつつ、さまざまな表現方法を学び、授業を組織する原理と方法を理解する。</p> <p>授業の概要： 図画工作科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「研究成果の発表」 (70 村上タカシ／1回) 図画工作科における社会との関係性についての課題 (51 平垣内清／6回) 「図画工作科における教科内容をめぐる課題(様々な表現の分析と検討、平面表現)」、「平面表現領域における教科内容構成の理解と考察：(絵画表現に関連して)、(版画表現に関連して)、(PC表現に関連して)」、「授業実践の検証(平面表現、基礎編)」、「実践のための授業設計と実際(平面表現、応用編)」 (37 虎尾裕／6回) 「図画工作科における教科内容をめぐる課題(様々な表現の分析と検討、立体表現)」、「立体表現領域における教科内容構成の理解と考察：(材料学について)、(歴史について)、(鑑賞への応用)」、「授業実践の検証(立体表現、基礎編)」、「実践のための授業設計と実際(立体表現、応用編)」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
<p>授業検証と教科内容開発 (基礎・保健体育科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 保健体育科のカリキュラム研究または授業研究を行う。具体的な実践事例に基づいて、授業の目標、教科内容、教材づくり、学習指導について説明できる。具体的な実践事例に基づいて、授業とカリキュラムの関係が説明できる。</p> <p>授業の概要： 体育科・保健体育科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していく活動との関連性について、理論的に考察する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「総合討論・検討」 (85 沼倉学／2回) 「学習指導要領の変遷(1)(小学校 体育科)」、「カリキュラムマネジメントについて(体育)」 (86 佐藤亮平／4回) 「学習指導要領の変遷(2)(中学校・高等学校 体育)(小との接続の観点)」、「保健体育科の現状と課題(2)(教科の目標及び内容)」、「カリキュラム概念の検討」、「カリキュラム研究の目的と方法」 (21 黒川修行／3回) 「学習指導要領の変遷(3)(小 保健)」、「保健体育科の現状と課題(4)(小 保健)」、「カリキュラムマネジメントについて(保健)」 (85 沼倉学・43 木下英俊／1回) 保健体育科の現状と課題(1)(小学校体育と保健体育科との関係) (86 佐藤亮平・40 池田晃一／1回) 保健体育科の現状と課題(3)(各学年の目標及び内容) (85 沼倉学・86 佐藤亮平・43 木下英俊・36 佐藤節子・40 池田晃一／1回) 「カリキュラム研究・授業研究・教材研究のテーマづくり(体育)」 (21 黒川修行・43 木下英俊・36 佐藤節子・40 池田晃一／1回) 「カリキュラム研究・授業研究・教材研究のテーマづくり(保健)」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>

	<p>授業検証と教科内容開発 (応用・保健体育科)</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 保健体育科教育におけるすぐれた実践研究をもとに目標・内容づくり・教材づくり・学習指導を検討し、カリキュラムづくりと授業づくりを構築することができる。</p> <p>授業の概要： 体育科・保健体育科に焦点を当て、教科の学習成果を検証・評価する学術的な専門知識と関連させながら、当該教科内容の背景となる学問に関する学術的な専門知識を教材として実際的かつ具体的に構成していくことのできる力を身につけることによって、教科指導力に関する専門性の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「オリエンテーション」、「授業実践・研究の成果発表」 (85 沼倉学／1回) 「単元学習概念の検討」 (86 佐藤亮平／1回) 「授業研究の目的と方法（小学校体育）」 (21 黒川修行／3回) 「授業研究の目的と方法（小学校保健）」、「体育と保健他の教科との領域融合の検証」、「授業実践・研究（保健）」 (43 木下英俊・85 沼倉学／1回) 「実践記録の批評（小学校体育）」 (36 佐藤節子・40 池田晃一・86 佐藤亮平／1回) 「実践記録の批評（中学校保健体育）（中高との接続の観点）」 (21 黒川修行・86 佐藤亮平／1回) 「実践記録の批評（高等学校保健体育）（中高との接続の観点）」 (43 木下英俊・86 佐藤亮平／1回) 「幼児体育と小学校体育の接続について」 (43 木下英俊／1回) 「運動学領域の理解と考察①-器械運動・体づくり運動に関連して-」 (40 池田晃一／1回) 「運動学領域の理解と考察②-球技・ゴール型に関連して-」 (36 佐藤節子／1回) 「身体表現教育の理解と考察」 (36 佐藤節子・40 池田晃一・43 木下英俊・85 沼倉学・86 佐藤亮平／1回) 「授業実践・研究（体育）」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
--	-----------------------------------	--	----------------------------

	<p>インクルーシブ教育総論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 国の施策である共生社会形成に向けたインクルーシブ教育の概要について理解する。障害のある子どもの特別な教育的ニーズや合理的配慮の内容を理解し、実際の教育現場での具体的対応を学び実践的な方策と計画・立案できる。</p> <p>授業の概要： 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進という、現在の日本における教育とめざすべき社会の実現のための、教育現場の具体的な取り組みについての理解と実践力を身につける</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／2回) 「イントロダクション：参加学生のインクルーシブ教育に関する知識と理解の共有」、「グループ討議：インクルーシブ教育の推進者としての教員とは」 (12 植木田潤／3回) 「インクルーシブ教育の理念1 ・障害の定義と障害者観の変遷」、「発達障害等の理解と支援」、「個別の教育支援計画と個別の指導計画」 (20 永井伸幸／2回) 「インクルーシブ教育の理念2 ・インクルーシブ教育における特別支援教育」、「小中学校等における特別支援教育の現状と課題」 (80 松崎丈／2回) 「国内外におけるインクルーシブ教育の潮流」、「特別支援学級・通級による指導の現状と課題」 (82 寺本淳志／2回) 「特別支援学校の現状と課題」、「自立活動の実際」 (80 松崎丈・20 永井伸幸／1回) 事例検討「小学校・中学校における取り組み」(感覚障害事例) (80 松崎丈・82 寺本淳志／2回) 「事例検討「小学校・中学校における取り組み」(感覚障害・肢体不自由事例)」、「事例検討「特別支援学校における取り組み」」 (20 永井伸幸・82 寺本淳志／1回) 「事例検討「高等学校における取り組み」」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同(一部)</p>
--	--------------------	--	-----------------------------

<p>特別支援教育コーディネーター概論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：特別支援教育コーディネーターの役割と意義について学ぶ。</p> <p>①対象児童生徒の実態、学級担任や保護者の相談内容・希望など踏まえつつ、学校や地域関係機関等の実情を考慮し、児童生徒の望ましい教育支援・指導にむけた各種調整と相談・支援の具体的内容を策定・実施できる。</p> <p>②特別支援教育にかかわる学校内の研修・研究体制の調整と内容の策定・実施ができる。</p> <p>授業の概要：小学校や中学校、高等学校ならびに特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割、その活動に必要とされる資質・能力の基礎を身につけるための研修、実践のあり方についての理解を促す。受講者の現任教等の実際の事例的を検討するとともに、各種資料も含めたさまざまなケースを取り上げ、コーディネーター業務に直結する具体的・実際的内容の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(2 菅井裕行・12 植木田潤／4回)</p> <p>「オリエンテーション・特別支援教育の推進と特別支援教育コーディネーター」、「特別支援教育コーディネーターの役割の概要」、「小・中・高等学校等における特別支援教育コーディネーターの役割とその実際」、「特別支援教育コーディネーターを支える校内体制・管理職の役割」</p> <p>(12 植木田潤／4回)</p> <p>「小・中・高等学校等における特別支援教育コーディネーターに関する事例的検討(1) (アセスメントとケース会議の持ち方について)」、「特別支援学校における特別支援教育コーディネーターに関する事例的検討(1) (アセスメントとケース会議の持ち方について)」、「特別支援教育コーディネーターと外部機関との連携に関するケーススタディ(1) (情報共有について)」、「特別支援教育コーディネーターと学級担任等の相談・支援に関するケーススタディ(3) (校内連携について)」</p> <p>(2 菅井裕行／4回)</p> <p>「小・中・高等学校等における特別支援教育コーディネーターに関する事例的検討(2) (他機関との連携について)」、「特別支援学校における特別支援教育コーディネーターに関する事例的検討(2) (他機関との連携について)」、「特別支援教育コーディネーターと外部機関との連携に関するケーススタディ(2) (個別的教育支援計画について)」、「特別支援教育コーディネーターと学級担任等の相談・支援に関するケーススタディ(1) (直接支援・間接支援について)」</p> <p>(71 三科聡子／2回)</p> <p>「特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割とその実際」、「特別支援教育コーディネーターと学級担任等の相談・支援に関するケーススタディ(2) (パートナーとしての保護者について)」</p> <p>(80 松崎丈／1回)</p> <p>「特別支援教育コーディネーターと学級担任等の相談・支援に関するケーススタディ(4) (外部専門家の活用について)」</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
-------------------------	---	-----------------------

<p>特別支</p>	<p>支援が必要な子どもと学校教育Ⅰ（知的障害・自閉症スペクトラム障害等）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 小学校・中学校・高等学校等の通常学級・特別支援学級・通級指導教室、特別支援学校における知的障害・自閉症スペクトラム障害等の児童生徒の障害特性と教育的支援について理論的ならびに実践的に理解する。</p> <p>授業の概要： 小学校・中学校・高等学校等の通常学級・特別支援学級・通級指導教室、特別支援学校における知的障害・自閉症スペクトラム障害等のある児童生徒への教育的支援と、各学校等における取り組みの在り方について、具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、教材作成・教材活用についてのケーススタディを行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回） （全員／2回） 「オリエンテーション・知的障害・自閉症スペクトラム障害等の教育と学校制度」、「交流及び共同学習、居住地校交流の実態と事例検討」 （12 植木田潤／5回） 「知的障害・自閉症スペクトラム障害等の教育と学習指導要領」、「小学校・中学校・高等学校等：支援の必要な児童生徒の実態と推移」、「小学校・中学校・高等学校等：通常学級における指導・支援の概要と事例検討」、「知的障害支援学校・高等学園：自閉症スペクトラム障害等の指導・支援の実際と指導過程の事例分析」、「知的障害支援学校・高等学園：自立活動の指導実践と事例分析」 （84 野崎義和／3回） 「小学校・中学校・高等学校等：特別支援学級における指導・支援の概要と事例検討」、「小学校・中学校・高等学校等：通級指導教室における指導・支援の概要と事例検討」、「小学校・中学校・高等学校等：学校全体における指導・支援の概要と事例検討」 （26 関口博久／3回） 「知的障害支援学校・高等学園：障害特性と支援・知的障害を中心に」、「知的障害支援学校・高等学園：知的障害の指導・支援の実際と指導過程の事例分析」、「知的障害支援学校・高等学園：障害特性と支援・自閉症スペクトラム障害等を中心に」 （84 野崎義和／2回） 「知的障害支援学校・高等学園：進路・就労・余暇の支援と事例検討」、「外部専門家の活用とその事例検討」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
------------	---	--	-----------------------

<p>支援が必要な子どもと学校教育Ⅱ（感覚障害・運動障害・身体疾患系）</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 小学校・中学校・高等学校等の通常学級・特別支援学級・通級指導教室、特別支援学校における視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由・病弱等の児童生徒の障害特性と教育的支援について理論的ならびに実践的に理解する。</p> <p>授業の概要： 小学校・中学校・高等学校等の通常学級・特別支援学級・通級指導教室、特別支援学校における視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由・病弱等のある児童生徒への教育的支援と、各学校等における取り組みの在り方について、具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、教材作成・教材活用についてのケーススタディを行う。</p> <p>（オムニバス方式／15回） （全員／3回） 「オリエンテーション・感覚障害・運動障害・身体疾患系の教育と学校制度」、「感覚障害・運動障害・身体疾患系の教育と学習指導要領」、「感覚障害・運動障害・身体疾患系支援学校等の交流及び共同学習、居住地校交流の実態と事例検討」 （20 永井伸幸／4回） 「特別支援学校（視覚障害）特別支援学級・通級（弱視）：障害特性と支援」、「特別支援学校（視覚障害）特別支援学級・通級（弱視）：支援の概要と事例検討（幼児期から小学部期を中心に）」、「特別支援学校（視覚障害）特別支援学級・通級（弱視）：支援の概要と事例検討（中学部期から高等部期を中心に）」、「特別支援学校（視覚障害）特別支援学級・通級（弱視）：支援の概要と事例検討（進路指導・就労および自立支援を中心に）」 （80 松崎丈／4回） 「特別支援学校（聴覚障害）特別支援学級・通級（難聴・言語障害）：障害特性と支援」、「特別支援学校（聴覚障害）特別支援学級・通級（難聴・言語障害）：障害特性と支援：支援の概要と事例検討（幼児期から小学部期を中心に）」、「特別支援学校（聴覚障害）特別支援学級・通級（難聴・言語障害）：障害特性と支援：支援の概要と事例検討（中学部期から高等部期を中心に）」、「特別支援学校（聴覚障害）特別支援学級・通級（難聴・言語障害）：障害特性と支援：支援の概要と事例検討（進路指導・就労および自立支援を中心に）」 （82 寺本淳志／4回） 「特別支援学校（肢体不自由）特別支援学級・通級（肢体不自由）：障害特性と支援」、「特別支援学校（肢体不自由）特別支援学級・通級（肢体不自由）：支援の概要と事例検討」、「特別支援学校（病弱）特別支援学級・通級（病弱・身体虚弱）：障害特性と支援」、「特別支援学校（病弱）特別支援学級・通級（病弱・身体虚弱）：支援の概要と事例検討」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
---	--	-----------------------

<p>不登校・学校不適應状況と学校教育</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における不登校・学校不適應状況の実態を理解するとともに、関係専門諸機関・外部専門家との連携等についてケーススタディを通して理解する。①小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における不登校・学校不適應状況の実態を理解し、その解消・改善に必要な各種機関や外部専門家の活用に関する具体的内容を策定・実施できる。②小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における不登校・学校不適應状況の発生を予見し、それを回避する具体的方策を策定・実施できる。</p> <p>授業の概要：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における不登校・学校不適應状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、各種専門機関との連携・協働等についてのケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (全員／1回) 「オリエンテーション・不登校・学校不適應と特別支援教育」 (22 久保順也／6回) 「不登校・学校不適應の支援：対象児童生徒の実態と推移」、「不登校・学校不適應の支援：校内支援体制の整備と実態」、「不登校・学校不適應の支援：校内支援体制のケーススタディ」、「不登校・学校不適應の支援：学級担任等教員による対応・支援の実態」、「不登校・学校不適應の支援：幼少期の養育・教育環境との関連」、「不登校・学校不適應の支援：幼少期の養育・教育環境についてのケーススタディ」</p> <p>(27 佐藤静／6回) 「不登校・学校不適應の支援：学級担任等教員による対応・支援のケーススタディ」、「不登校・学校不適應の支援：スクールカウンセラー等のチーム学校による対応」、「不登校・学校不適應の支援：スクールカウンセラー等のチーム学校による対応のケーススタディ」、「不登校・学校不適應の支援：引きこもり等社会生活上の不適應との関連」、「不登校・学校不適應の支援：引きこもり等社会生活上の不適應についてのケーススタディ」、「不登校・学校不適應の支援：外部相談機関との連携の実例（2）（引きこもり事例）」 (26 関口博久／2回) 「不登校・学校不適應の支援：発達障害等の各種障害群との関連」、「不登校・学校不適應の支援：外部相談機関との連携の実例（1）（発達障害事例）」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>子どもをめぐる社会的諸問題と福祉</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：子どもたちが直面しているさまざまな社会的諸問題の実態を理解するとともに、福祉関係・保健関係の専門諸機関との連携の必要性と具体的な対応等についてのケーススタディを通して理解する。①子どもが育つ家庭・社会環境の現状を理解し、その中で生じる諸問題の実態を理解する。②子どもの成長にかかわる学校を含む行政・社会的諸機関の役割と、その連携の重要性を理解し、現実の課題に対応するための具体的な方法を考案・実施ができる資質を養う。</p> <p>授業の概要：学校内に限定することなく、広く社会において子どもたちが直面している社会的諸問題の実態を分析するとともに、各種専門機関の役割と福祉的施策を含めた対応等についてのケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (71 三科聡子／3回) 「オリエンテーション・社会的視点から見た特別支援教育」、「子どもをめぐる社会的諸問題の実態」、「家庭環境・地域環境と子どもの成長・発達」 (80 松崎丈／4回) 「障害のある子どもへの放課後等デイサービスの現状と課題」、「障害者総合支援法に該当しない障害児への対応に関する現状と課題」、「障害のある新生児への支援における保健・医療・福祉等の連携をめぐる現状と課題」、「障害のある子どもの情報アクセシビリティをめぐる現状と課題」 (69 武井真澄／4回) 「就学前の障害乳幼児への地域的支援に関する現状と課題」、「外国籍の子どもへの教育的視点に関する現状と課題」、「僻地での教育活動に関する現状と課題」、「これまでの訪問教育の歴史を振り返り、今後の訪問教育や各種ICTを活用した遠隔授業等についての検討」 (22 久保順也／4回) 「被虐待とその支援：実態とその推移」、「子どもの非行と自立支援：実態とその推移」、「子どもの非行と自立支援：政策動向と各種行政機関等における支援」、「子どもの非行と自立支援：機関間連携についてのケーススタディ」</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>特別支援教育とICT</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標：学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の示す様々な「つまずき」や「困難」などの適切な対応に有効とされるICTを活用した具体的な指導法、支援内容等に関して理解する。①対象児童生徒の実態、学校や地域関係機関等の実情を考慮し、ICTデバイス・アプリを活用した教育支援・指導法を考案・実施できる。②ICT活用にかかわる学校内の研修・研究体制の調整と内容の策定・実施ができる。</p> <p>授業の概要：配慮を必要とする児童生徒に対する指導・支援における核種ICTの活用状況についての具体的実践例を踏まえて理論的考察を行うとともに、ICT機器の実践的活用、アプリケーション等の教材作成と、添えを用いた教材活用法についてのケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (82 寺本淳志・20 永井伸幸／1回) オリエンテーション・学校教育とICTの活用 (82 寺本淳志・1 水谷好成／5回) 「知的障害・発達障害への教育支援とICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「知的障害・発達障害への教育支援とICT(2)：指導事例の検討」、「知的障害・発達障害への教育支援とICT(3)：デバイス・アプリの活用実習」、「教育のユニバーサルデザインとICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「教育のユニバーサルデザインとICT(2)：指導事例の検討とデバイス・アプリの活用実習」 (82 寺本淳志／3回) 「運動障害・肢体不自由への教育支援とICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「運動障害・肢体不自由への教育支援とICT(2)：指導事例の検討」、「運動障害・肢体不自由への教育支援とICT(3)：デバイス・アプリの活用実習」 (1 水谷好成／2回) 「健康障害・病弱への教育支援とICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「健康障害・病弱への教育支援とICT(2)：指導事例の検討とデバイス・アプリの活用実習」 (20 永井伸幸／2回) 「視覚障害への教育支援とICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「視覚障害への教育支援とICT(2)：指導事例の検討とデバイス・アプリの活用実習」 (80 松崎丈／2回) 「聴覚障害への教育支援とICT(1)：ICT活用の意義と実態」、「聴覚障害への教育支援とICT(2)：指導事例の検討とデバイス・アプリの活用実習」</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>地域協働フィールドワーク論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 地域における多様な教育資源を活用し、課題解決や探究のプロセスを通して児童生徒を育む力の育成をめざす。フィールドワークを通して効果的に情報収集をおこなうとともに、調査結果を生かした学習指導計画を作成する。</p> <p>授業の概要： 社会教育活動・自然体験活動・地域活動など、多様な活動の観察や専門機関・関係者の聞き取り調査を含めたフィールドワークを核に授業を展開する。地域と学校のネットワークを通しての人間形成を担い、教師として「社会に開かれた教育課程」を実現できる力の育成をめざす。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (5 梨本雄太郎／4回) 「学校外における体験型・探究的な学び」、「地域における多様な学習機会と職員の役割」、「学校外の学びに関するフィールドワーク」、「地域の教育機関に関するフィールドワーク」 (4 齊藤千映美／4回) 「団体野外活動の意義と役割」、「自然体験の場としてのフィールドミュージアム」、「地域の自然観察フィールドワーク」、「社会教育施設における自然体験フィールドワーク」 (67 溝田浩二／4回) 「校庭の教育資源を活用した体験学習」、「学校ビオトープにおけるフィールドワーク」、「地域の在来知をつなぐ」、「地域の在来知に関するフィールドワーク」 (全員／3回) (共同) ガイダンス、指導計画の発表と検討、まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

<p>リーガルマインドによる学校づくり</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： リーガルマインドに基づく学級・学校経営の在り方について、具体的な事例とともに考察する。教育に関わる法令・判例について基礎的な知識を習得し、それらを用いた、より適切な教育活動を展開していく方法について考察できようになることを目指す。</p> <p>授業の概要： 教育法の体系の下に学校教育活動がどのように展開されるべきか、教員の職務や服務、学校事故等への対応、コンプライアンス等のテーマについて判例となった事例の分析も交え、具体的な事例を用いながら検討する。いじめ防止対策推進法についても詳解を図る。リーガルマインドに基づく学級・学校づくりを各学校においてどのように実現していくか課題の克服について討議する。</p> <p>(オムニバス／15回) (8 本図愛実／2回) 担当内容 「教育法の体系と学校」、「いじめ防止対策推進法の理解と運用」 (5 梨本雄太郎／1回) 「教育活動の理念と根拠」 (88 笹村恵司／8回) 担当内容 「教員の職務とコンプライアンス」、「学校事故等の法令・判例分析：(危機管理)、(休み時間中の事故・引率中の事故)、(いじめ・不登校)、(ハラスメント)、(災害)、(学校安全計画)」 (29 佐藤美知子・8 本図愛実／2回) 「教育課程管理」、「保護者対応」 (29 佐藤美知子・5 梨本雄太郎・8 本図愛実／2回) 「学校管理規則の運用」、「リーガルマインドの実現にむけて」</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>学校安全と防災教育</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 各校の学校安全計画および学校安全マニュアルを見直すとともに、防災教育・安全管理の知識と態度を養う安全教育・防災教育について検討する。</p> <p>授業の概要： 地域の災害履歴の調査や避難訓練の参与観察などを通じて、学校と地域の防災のあり方について省察し、地域防災や安全管理の先進事例や専門機関の取組から、学校安全マニュアル等を見直し、PDCAに基づく学校と地域が協働する防災計画について考察するとともに、教員の防災の指導力と専門性向上に向けた知識・技能等について検討する。</p> <p>(オムニバス／15回) (24 小田隆史／4回) 「ハザードと災害リスク理解の基礎」、「地球規模課題としての災害～仙台防災枠組」、「地域災害史調査・防災訓練の参与観察」、「関係機関との連携の事例(国土交通省)：災害安全(防災)」 (8 本図愛実／1回) 「災害給付制度の理解から考える交通安全・生活安全」 (24 小田隆史・5 梨本雄太郎・8 本図愛実／2回) 「震災伝承、学校再開、避難所運営」、「クライシスマネジメント」 (24 小田隆史・29 佐藤美知子／1回) 「災害対応シミュレーション(気象庁ワークショップ)」 (29 佐藤美知子／2回) 「防災教育とカリキュラム・マネジメント」、「防災教育と副読本の省察」 (1 水谷好成／3回) 「関係機関との連携の事例(消防)：消防・救急」、「避難所運営の基礎と実演」、「特別な配慮を要する児童生徒の安全教育・管理」 (24 小田隆史・29 佐藤美知子・5 梨本雄太郎・8 本図愛実／1回) (共同) 「PDCAに基づく地域協働防災計画」 (全員／1回) ガイダンス</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>

学校課題解決マ

<p>情報リテラシーとICT</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：教育の情報化に関する基礎的な知識と実践 到達目標：教育の情報化に関する手引きの内容を踏まえた授業設計と模擬授業を通じた実践力を習得することができる。検索サイトを利用した協同学習の実態を理解し、実践に繋げることができる。</p> <p>授業の概要： 情報化が進展している今日的な社会状況の中で、自らの目的にふさわしい情報を適切に選択し、発信できる力を子どもに育成するとともに、ICTを効果的に活用してカリキュラム、授業実践、学校運営等を効率的に行っていくことのできる知見と方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス／15回) (6 平真木夫／5回) 「検索サイトの活用と協同学習に関する実験」、「検索サイトの活用と協同学習1：既存知識の役割」、「検索サイトの活用と協同学習2：道具の活用」、「教育的効果を図る尺度の理解とICT1：質問紙作成に必要な統計学」、「教育的効果を図る尺度の利用とICT2：心理学的尺度の実際」 (31 信太昭伸／3回) 「情報活用能力の育成を意図した模擬授業開発：国語と社会科、算数・数学と理科、外国語・英語と体育」 (68 安藤明伸／7回) 「オリエンテーション、教育の情報化の概要」、「教育の情報化に関する手引きと教科・校務でのICT活用」、「教情報活用能力の育成と組織的なカリキュラム・マネジメント」、「情報活用能力の育成を意図した授業設計」、「簡単なプログラミングを扱う授業実践に必要な知識・技能」、「プログラミングを取り入れた授業設計」、「プログラミングを取り入れた授業演習」</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>グローバル教育課題の探究</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 国際的な視点から教育課題を理論的に捉え直し、国内外の学校・教育活動・研修を観察し、課題解決に関わる手がかりを得る。これらを通し、各自の研究テーマに即した、グローバルな教育課題の解決にむけた見通しを立てることができるようになる。</p> <p>授業の概要： SDGsなど国際社会全体の持続可能な到達目標を見据え、日本の学校教育を検討する。公正の普遍的価値を理解し、インクルーシブ教育、グローバルシチズンシップ、外国籍の児童生徒を含む指導、資質能力の理解、オルタナティブ教育、社会的経済的階層、幼年期の教育方法の多様性と可能性といった視点などを踏まえ、フィールドワークを行い、批判的検討を加え、課題解決の方策を検討する。</p> <p>(オムニバス／15回) (49 市瀬智紀／2回) 「SDGsの推進からみた教育課題」、「教育課題の視点1 グローバルシチズンシップ」 (7 田端健人／2回) 「教育課題の視点2 認知能力と非認知能力」、「教育課題の視点4 オルタナティブ教育の理論と実践」 (62 高橋亜紀子／1回) 「教育課題の視点3 外国籍の児童生徒とともに」 (8 本図愛実／1回) 「教育課題の視点5 公正と社会的経済的階層」 (50 佐藤哲也／1回) 「教育課題の視点6 多様な幼年教育の方法と可能性」 (全員／8回) 「視点1～6についてのフィールドワーク」、「フィールドワーク内容の批判的検討」、「まとめ」</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>

	<p>幼年期の教育と幼保小連携・接続</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 幼保小連携連携・接続の理論と実践について理解するとともに、実践を構想・展開・評価するための職能を開発する。</p> <p>授業の概要： 就学前教育・保育（保育所、幼稚園、認定こども園）と小学校教育との連携と接続に関して理論と実践の双方から検討する。歴史的・社会的背景、国や都道府県・市町村の取り組み、学校園におけるアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの策定、実践展開と評価、今後の課題について多角的に考察を進めていく。</p> <p>（オムニバス／15回） (74 飯島典子／4回) 「幼保小連携・接続の背景：幼児期の生活と育ちの社会・文化的課題、幼年期の教育における生活と学びの連続性、スタートカリキュラムの策定と評価、アプローチカリキュラムの策定と評価」 (18 香曾我部琢／2回) 「幼保小連携・接続の背景：小1プロブレムと学力問題」、「保小連携・接続の実践：山形県における取り組み」 (25 越中康治／1回) 「幼保小連携・接続の理論：幼児期から児童期への発達特性」 (50 佐藤哲也／7回) 「保小連携・接続の実践：附属学校園の取り組み、仙台市の取り組み、宮城県気仙沼市の取り組み、宮城県塩竈市の取り組み、宮城県白石市の取り組み、国内における取り組み、海外における取り組み」 （全員／1回）（共同） まとめ</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>学校における実習（臨床実践）</p>	<p>学校課題解決実習</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 【テーマ】学校課題の「分析」 【到達目標】 （ストレートマスター）自ら立案・実施した教育実践の成果を分析し、各自の取り組む課題を明確にする。 （現職院生）自らの教育実践についてこれまでの成果と課題について分析を行い、ミドルリーダー教員としての力量と自覚を高める。さらに、後進とともに成長できるチーム力も培う。</p> <p>授業の概要： 自ら立案・実施した学習指導等の成果を分析し、各自の取り組む課題を明確にする。附属学校園や実習拠点・協力校において優れた授業実践に学び、学校・地域の課題も視野に入れつつ、自らの実践の課題について省察する。</p>	
	<p>臨床教育開発実習</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標： 【テーマ】教育実践の深化と開発 【到達目標】 （ストレートマスター）教育実践力をさらに高めるとともに、自ら立案・実施した教育実践を発展させ続けられる、教材研究・授業力の深化や指導支援の研究推進ができる力を身につける。 （現職院生）自らの教育実践の分析を通して得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践の開発と深化を行う。</p> <p>授業の概要： 自ら立案・実施した教育実践の分析を通して得られた知見と課題に基づき、学校・地域の教育課題を視野に入れた教育実践をデザインし、指導力を深化させる。臨床教育総合演習A・Bと連動しながら、大学と附属学校園・実習拠点校・勤務校を往還することで、教科専門、教科教育専門、教職専門、実務家教員のチーム・ティーチングを通じた学修により、学校・地域の「臨床」に即した実践と研究を進める。</p>	

<p>実態把握と実践適応論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：研究テーマに関する実態把握と実践適応 到達目標：各種の学校課題との関わりで自身のテーマを明確化し、 テーマに関わる実態を適切に把握することができる。</p> <p>授業の概要： 各種の学校課題の解決との関連に配慮しつつ、自己の研究テーマに 即した課題の「把握」およびその過程で学んだ理論的知見の適応（実 践）の一連のプロセスについて、教育科学専門領域、教科教育専門領 域、教科専門領域および実務家教員の知見を踏まえて総合的に考察を 行い、中間報告としての実践報告の作成に結びつけていく。</p>	<p>共同</p>
<p>実践適応と評価・分析論</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：研究テーマに関する知見の実践適応と評価・分析 到達目標：各自の研究テーマに関して得た理論的知見を教育実践に適 応し、成果と課題を評価・分析することができる。</p> <p>授業の概要： 把握および適応（実践）の一連のプロセスを発展させつつ、自己の 研究テーマに即した評価および分析の一連のプロセスについて、教育 科学専門領域、教科教育・特別支援教育専門領域教、教科専門領域教 員および実務家教員の知見を踏まえて総合的に考察を行い、その成果 を中間報告としての実践報告にまとめる。</p>	<p>共同</p>
<p>臨床教育総合演習 A</p>	<p>授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：＜把握－適応（実践）－評価－分析＞のプロセスの省 察と改善・開発への動機付け 到達目標：各自の実践と研究の一連のプロセスを省察し、より高次の 実態把握・分析を行うことができる。</p> <p>授業の概要： 自己の研究テーマについて、把握－適応（実践）－評価－分析の一 連のプロセスを省察する活動を通して、各種の学校課題の解決につい て自己の研究テーマが有している意義・有効性を自覚しながら、各種 の学校課題の解決に向けた新たな試みへの関心・意欲を高める。</p>	<p>共同</p>

		臨床教育総合演習 B (特別支援)	<p>授業のテーマ及び到達目標 テーマ：研究プロセスの総括と開発 到達目標：特別支援領域に関する各自の研究テーマに関わる課題に対するより高次な把握・分析に基づき、課題の解決方法を講じ、新しい教育実践を構想・開発することができる。</p> <p>授業の概要： 把握－適応（実践）－評価－分析の一連のプロセスを総括し、その延長線上に、特別支援領域に関する各種の学校課題の解決に向けた新たな試みに取り組む「開発」の活動を行い、その成果を最終的な実践報告としてまとめる。</p> <p>(共同／15回) (全員／15回)</p> <p>「各種教育課題・教育実践のより深い実態分析結果の適応」、「教育課程・指導支援計画への適応(1) 仮説の再設定」、「教育課程・指導支援計画への適応(2) 再設定した仮説の検討」、「教育課程・指導支援計画への適応(3) 省察」、「教育課程・指導支援計画への適応(4) 仮説の補強」、「院生の研究テーマ発表と相互批評(1) より深い実態把握・分析結果の共有」、「院生の研究テーマ発表と相互批評(2) より深い実態把握・分析結果の検討」、「院生の研究テーマ発表と相互批評(3) 再設定した仮説の提示とその検討」、「院生の研究テーマ発表と相互批評(4) 再設定した仮説の補強と確定」、「各種教育課題・教育実践の総合的考察(1) 成果の総括」、「各種教育課題・教育実践の省察(2) 指導計画・指導支援法の開発」、「各種教育課題・教育実践の省察(3) まとめに向けた知見の整理・構造化」、「研究成果の総括(1) 実践報告(最終)の構成と作成方法」、「研究成果の総括(2) 実践報告(最終)の作成」、「研究成果の総括(3) 実践報告(最終)の確定」</p>	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

基本計画書「補足資料」

国立大学法人宮城教育大学 設置申請等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宮城教育大学				宮城教育大学				
教育学部				教育学部				
初等教育教員養成課程	188	-	752	初等教育教員養成課程	188	-	752	
中等教育教員養成課程	107	-	428	中等教育教員養成課程	107	-	428	
特別支援教員養成課程	50	-	200	特別支援教員養成課程	50	-	200	
計	345	-	1380	計	345	-	1380	
宮城教育大学大学院				宮城教育大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
〈修士課程〉				〈修士課程〉				
特別支援教育専攻	3	-	6	特別支援教育専攻	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教科教育専攻	22	-	44	教科教育専攻	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
〈専門職学位課程〉				〈専門職学位課程〉				
高度教職実践専攻	32	-	64	高度教職実践専攻	52	-	104	研究科の専攻の設置(事前伺い)
計	57	-	114	計	52	-	104	